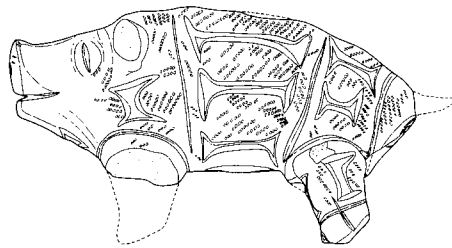


市原市文化財センター年報

平成 4 年度



財団法人 市原市文化財センター

序

平成4年度の発掘調査は、公共・民間を含め、確認調査13、確認～本調査4、本調査4について実施いたしました。その結果、縄文時代から近世にいたる各種の遺構・遺物を検出し、重要な成果を得ております。

本調査を実施した遺跡の中には、対象面積が広く集落跡の検出により、往時の集落構造の解明に貴重な資料を追加することができた調査が幾つかあります。

特に、全国的にも出土例の稀なイノシシを形どった動物形土製品の出土した能満上小貝塚遺跡では、縄文時代晩期の集落跡が発見され、土偶や手燭形土製品を始めとする多量の土製品が検出されました。また、浅井小向釜神遺跡では弥生時代から平安時代にいたる234軒の住居跡が検出され、国分寺台遺跡群と養老川を挟んで対峙する地域にも、大集落が形成されていたことがわかりました。更に、村田川水系に位置する喜多仲台遺跡では平安時代の住居跡から十数点の墨書土器が発見されるなど、注目される多くの成果が上げられています。

これらの成果につきましては、例年開催しております遺跡発表会において市民の皆様にご公開いたしました。当日は午後の特別講演で、特に俳優の荻谷俊介氏による講演をお願いして、市民の方々には埋蔵文化財がより身近な親しみ易い文化財として受け止められたものと確信しております。

今後もこうした普及活動を通じ、文化財が広く市民に愛されるよう、努力を重ねてまいりたいと思っております。

最後に、常にご指導・御協力を賜っております千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、心より御礼申し上げます。

平成8年3月25日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 佐野年男

目 次

序

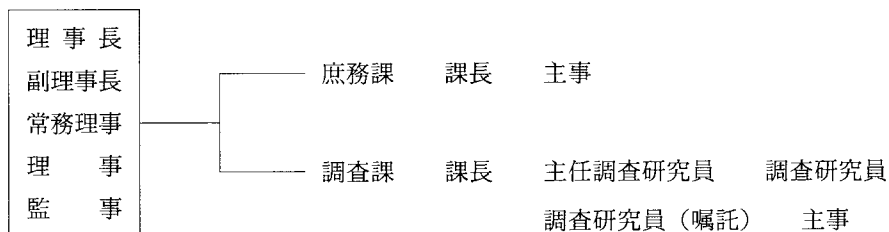
I 機構	1
II 平成4年度事業概要	2
III 平成4年度調査概要	7
1. 不入斗元居原遺跡（確認調査）	9
2. 喜多仲台遺跡（本調査）	10
3. 南名山遺跡（確認調査）	13
4. 釜神遺跡（確認調査・本調査）	14
5. 山田橋大塚台遺跡（確認調査）	19
6. 潤井戸天王台古墳（確認調査）	21
7. 姉崎東原遺跡D地点（確認調査）（市内遺跡発掘調査）	22
8. 江子田送り神塚（確認調査・本調査）（市内遺跡発掘調査）	24
9. 大厩鍛冶屋前台遺跡（確認調査）（市内遺跡発掘調査）	26
10. 原太稲荷塚（本調査）	28
11. 郡本遺跡群（確認調査）（上総国府推定地確認調査）	30
12. 安須1・2号墳（本調査）	31
13. 姉崎東原遺跡B地点（本調査）	33
14. 不入斗大宮遺跡（確認調査）	35
15. 能満上小貝塚遺跡（確認調査・本調査）	36
16. 勝間上座頭橋遺跡（確認調査）	39
17. 村上白山遺跡（確認調査・本調査）	49
18. 宮原堂谷遺跡（確認調査）	50
19. 宮原布谷台貝塚（確認調査）	50
20. 分目要害遺跡（確認調査）	52
21. 山木深堀遺跡（確認調査）	54
IV 平成4年度受贈図書一覧	55

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員及び職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事をもって構成され、平成4年度の職員は、事務職員4名（内市都市公社出向職員1名）、技術職員10名（内市事務従事職員9名）であり、その組織及び氏名は以下のとおりである。

1. 組 織

役 員



2. 役 員

職 名	役 職 名	氏 名	職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星野 一郎 ～4.10.31 植草 久善 4.11.1～	理 事	市 原 市 企 画 部 長	佐野年男
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	田中信雄	理 事	市 原 市 総 務 部 長	落合 泰
常務理事	市原市教育委員会副参事	鈴木太郎	理 事	市 原 市 財 務 部 長	加瀬睦郎
理 事	千 葉 大 学 教 授	加藤晋平	理 事	市原市都市計画部長	田中俊夫
理 事	和 洋 女 子 大 学 教 授	寺村光晴	監 事	市 原 市 会 計 課 長	高橋 孝
理 事	郷 土 史 家	木村千春	監 事	市原市教育委員会総務課長	青柳四郎治

3. 職 員

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	調査課	調査研究員	近 藤 敏
	主 事	大 鐘 光 江		調査研究員	高 橋 康 男
	主 事	阿 部 茂 之		調査研究員	木 對 和 紀
調査課	課 長	米 田 耕 之 助		調査研究員	忍 澤 成 視
	主任調査研究員	田 中 清 美		調査研究員	田 中 茂 良
	主任調査研究員	浅 利 幸 一		調査研究員（嘱託）	半 田 堅 三 子
	調査研究員	大 村 直		主 事	高 浦 貞 子

II 平成4年度事業概要

1. 理事会の開催

平成4年度の理事会は、次のとおり開催された。

第1回理事会 平成4年5月26日 於：市原市民会館 第一会議室

議案第1号 平成3事業年度 事業報告について

議案第2号 平成3事業年度 収入支出決算について

第2回理事会 平成4年11月12日 於：市原市役所 議会棟第3委員会室

議案第1号 平成4事業年度 事業計画の変更について

議案第2号 平成4事業年度 補正予算（第1号）について

第3回理事会 平成5年3月26日 於：市原市役所 8階802会議室

議案第1号 平成4事業年度 事業計画の変更について

議案第2号 平成4事業年度 補正予算（第2号）について

議案第3号 平成5事業年度 事業計画について

議案第4号 平成5事業年度 予算について

議案第5号 週休2日制の実施その他職員の服務事項等の整備に伴う財団法人市原市文化財センター関係規程の整備に関する規程について

2. 会計監査

平成4事業年度の会計監査は、平成5年5月25日(木)市原市文化財センター事務室において、中村知之・深澤和良監事により実施された。

3. 平成4事業年度受託事業

番号	事業名	委託者	遺跡名	種別	面積・数量 m ²	事業内容	契約年月日	完了年月日	(円) 受託金額
1	市道1093号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	不入斗 元居原	包蔵地	140㎡	確認調査	平成4年4月1日	平成5年3月10日	1,946,700
2	市道48号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	喜多仲台	集落跡	9,000㎡	本調査	平成4年4月1日	平成5年3月10日	29,480,660
3	市道6018号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	南名山	包蔵地	143㎡	確認調査	平成4年6月1日	平成5年3月18日	2,920,050
4	都市農業センター設置事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (農業センター)	釜神	包蔵地	1,380㎡	確認調査	平成4年4月1日	平成5年3月5日	9,999,240
5	都市農業センター設置事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (農業センター)	釜神	包蔵地	7,000㎡	本調査	平成4年10月1日	平成5年3月31日	44,059,556
6	都市計画道路草刈・西広線(山田橋地区)建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (街路課)	山田橋 大塚台	包蔵地	1,000㎡	確認調査	平成4年7月28日	平成5年3月15日	9,976,580

番号	事業名	委託者	遺跡名	種別	面積・数量 ㎡	事業内容	契約年月日	完了年月日	(円) 受託金額
7	都市計画道路草刈・西広線(久々津地区)建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	観井戸天王台古墳群	包蔵地 古墳	360㎡	確認調査	平成4年5月27日	平成5年3月10日	9,916,840
8	市内遺跡発掘調査(補助金分)	市原市(文化課)	姉崎東原D地点 江子田送り神塚 大阪織治屋前	包蔵地	600㎡	確認調査 本調査 整理	平成4年7月20日	平成5年3月10日	5,871,000
9	市内遺跡発掘調査(市単費分)	市原市(文化課)	姉崎東原D地点 江子田送り神塚 大阪織治屋前	包蔵地	600㎡	確認調査 本調査 整理	平成4年7月20日	平成5年3月10日	1,865,330
10	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市(文化課)	天神台	集落跡他		基礎整理	平成4年4月1日	平成5年3月31日	10,000,000
11	岩崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市(区画整理課)	原太 稲荷塚	塚	340㎡	本調査	平成4年5月1日	平成5年3月10日	2,998,330
12	上総国府推定地確認調査	市原市(文化課)	郡本 遺跡群	国府 推定地	150㎡	確認調査	平成5年1月27日	平成5年3月31日	4,999,620
13	ゴルフ場用道路(安須地区)建設に伴う埋蔵文化財調査	泉水建材株式会社	安須1 ・2号墳	古墳	1,092㎡	本調査 整理 報告書刊行	平成4年4月1日	平成5年3月31日	16,341,355
14	宅地造成(姉崎東原地区)に伴う埋蔵文化財調査	株式会社 大和建設	姉崎東原 B地点	集落跡	2,100㎡	本調査 整理	平成4年4月1日	平成5年3月31日	19,300,666
15	宅地造成(青葉台地区)に伴う埋蔵文化財調査	東洋不動産 日本信販(株)	不入斗 下大宮	包蔵地	400㎡	確認調査	平成4年5月1日	平成5年3月12日	2,742,890
16	トラックターミナル建設に伴う埋蔵文化財調査	福山通運(株) 武蔵屋商事(株)	上小貝塚	集落跡	1,392㎡	確認調査	平成4年7月2日	平成5年3月12日	7,727,060
17	トラックターミナル建設に伴う埋蔵文化財調査	福山通運(株) 武蔵屋商事(株)	上小貝塚	集落跡	4,703㎡	本調査	平成4年11月11日	平成5年3月31日	40,749,683
18	土砂採取に伴う埋蔵文化財調査	清和産業 株式会社	上座頭橋	集落跡	2,530㎡	確認調査	平成4年9月7日	平成5年2月15日	2,154,760
19	市道83号線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市(道路建設課)	村上遺跡群 白山遺跡	集落跡	200㎡	確認調査	平成4年9月29日	平成5年3月12日	3,084,850
20	市道83号線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市(道路建設課)	村上遺跡群 白山遺跡	集落跡	600㎡	本調査	平成4年10月17日	平成5年3月12日	2,008,500
21	市道112号線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市(道路建設課)	堂谷遺跡 要害遺跡 布谷台貝塚	包蔵地 貝塚	860㎡	確認調査	平成4年12月22日	平成5年3月31日	7,849,630
22	不特定遺跡発掘調査(山木深堀遺跡)補助金分	市原市(文化課)	山木深堀 遺跡	包蔵地	115㎡	確認調査	平成5年3月2日	平成5年3月31日	1,483,200
23	不特定遺跡発掘調査(山木深堀遺跡)市単費分	市原市(文化課)	山木深堀 遺跡	包蔵地	115㎡	確認調査	平成5年3月2日	平成5年3月31日	324,222
合 計									237,800,722

4. 研究事業

(1)外部主催研修会等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総会 H4.6.18・19 於：広島県広島市
イ. 関東・中部ブロック法人連絡協議会 H4.4.23 於：東京都千代田区
H4.10.29・30 於：富山県富山市
ウ. 担当職員研修会 H4.9.17・18 於：群馬県伊香保町

②関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員研修会

H4.11.5・6 於：神奈川県箱根町

③千葉県文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総会 H4.6.29 於：千葉市
イ. 共同研修会 H4.11.17 於：千葉市民文化ホール
ウ. 技術講習会 H4.12.2 於：千葉県教育庁印旛地方出張所別館
エ. 遺跡調査研究発表会 H5.1.31 於：佐原市文化会館
オ. 合同海外研修会 H4.10.15～19 於：韓国（慶州～光州）

④市町村埋蔵文化財担当者会議

H4.10.13 於：千葉県立美術館

(2)内部研修会

- ①職員研修会 H4.9.22 於：袖ヶ浦市雷塚遺跡、木更津市管生遺跡、笹子城跡
②調査補助員研修会 H4.10.27 於：千葉県立房総風土記の丘、房総のむら

(3)『研究紀要Ⅱ』の刊行

5. 報告書の刊行

『市原市安須古墳群』



千葉県立房総風土記の丘

6. 普及活動

(1)遺跡発表会 平成5年3月7日(日) 於：市原市五井会館

①平成4年度発掘調査成果の発表 担当職員

- ア. 能満上小貝塚遺跡(縄文時代晩期を中心とした集落跡の調査)
- イ. 姉崎東原遺跡B地点(弥生時代～古墳時代集落跡と前方後方墳の調査)
- ウ. 安須古墳群(方墳2基と弥生時代住居跡の調査)
- エ. 喜多仲台遺跡(平安時代集落跡と中近世の土壌群の調査)

②特別講演

『市原市の中世城郭について』—中世を生きた人々—

市原市教育委員会文化課 田所 真

『私と考古学』—フィジーの環濠区画と邪馬台国以前にあった三階建て—

俳 優 荻谷俊介

(2)印刷物の刊行

『私たちの文化財』19号

- ①天神台遺跡出土の土器に船の絵
- ②調査速報
- ③遺跡発表会開催
- ④低湿地遺跡の出土品

『私たちの文化財』20号

- ①鈴・馬具・墨書土器などの豊富な遺物が出土
—喜多仲台遺跡調査速報—
- ②貝塚の調査法(山田橋亥の海道貝塚)
- ③縄文時代のアクセサリー
垂飾—サメ・イノシシ牙・鹿角・
ツノガイ
貝輪—サルボウガイ・ベンケイガイ
タカラガイ加工品



7. 平成4年度決算報告

平成4年4月1日から
平成5年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補償予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	△ 62,000	338,000	491,697	153,697	
事 業 収 入	313,231,000	△ 76,315,000	236,916,000	238,043,572	1,127,572	
雑 収 入	2,008,000	1,794,000	3,802,000	5,005,818	1,203,818	
当 期 収 入 合 計	315,639,000	△ 74,583,000	241,056,000	243,541,087	2,485,087	
前期繰越収支差額	44,492,000	△ 1,005,000	43,487,000	43,487,525	525	
収 入 合 計	360,131,000	△ 75,588,000	284,543,000	287,028,612	2,485,612	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補償予算額	合 計			
受 託 事 業 費	275,670,000	△ 66,244,000	209,426,000	218,852,018	9,426,018	
研 究 事 業 費	1,834,000	1,942,000	3,776,000	3,692,564	△ 83,436	
普 及 事 業 費	1,703,000	2,189,000	3,892,000	2,888,471	△ 1,003,529	
一 般 管 理 費	16,160,000	△ 5,050,000	11,110,000	8,481,404	△ 2,628,596	
消 費 税 支 出	1,879,000	△ 458,000	1,421,000	2,773,300	1,352,300	
固定資産取得支出	1,000,000	1,485,000	2,485,000	2,484,978	△ 22	
財政調整基金積立預金支出	5,000,000	—	5,000,000	6,072,423	1,072,423	
退職給与引当預金支出	200,000	10,000	210,000	210,000	0	
予 備 額	3,000,000	△ 3,000,000	0	—	—	
当 期 支 出 合 計	306,446,000	△ 69,126,000	237,320,000	245,455,158	8,135,158	
当 期 収 支 差 額	9,193,000	△ 5,457,000	3,736,000	△ 1,914,071	△ 5,650,071	
次期繰越収支差額	53,685,000	△ 6,462,000	47,223,000	41,573,454	△ 5,649,546	

Ⅲ 平成4年度調査概要

今年度の調査は、確認調査13か所、確認調査～本調査4か所、本調査4か所について実施した（うち国庫補助事業による市内遺跡発掘調査3か所）。

調査の対象となった遺跡は、縄文時代から近世の広範囲に及び、貝塚・集落・古墳・城郭・塚などさまざまであったが、ここでは特に注目された調査成果を紹介する。

縄文時代では、能満上小貝塚遺跡が注目された遺跡として挙げられる。当遺跡は村田川に注ぐ支谷の左岸台地上に形成された後～晩期の集落跡で、表紙に掲げたイノシシ形土製品が出土している。イノシシ形土製品は3軒の住居跡から出土した部位が接合したもので、前足部を欠損するものの、全体の形状が良く把握され、大きな鼻・背中・足先の作りは猪の特徴を良く捉えている。また、体面にはI字文が施され製作時期を明確にできるもので、青森県十腰内遺跡出土例と並び縄文時代を代表する動物形土製品と言える好資料である。

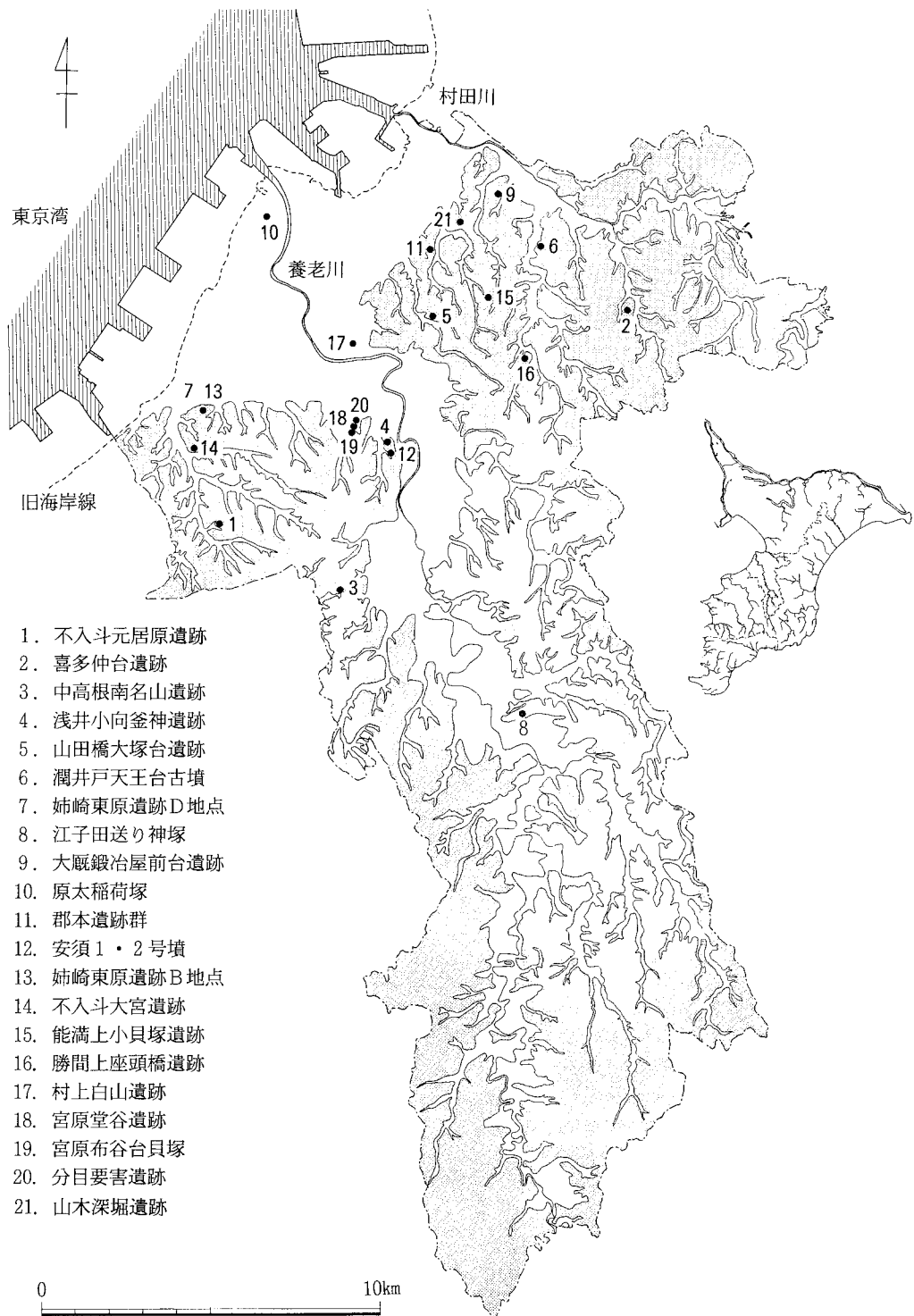
弥生時代以降の遺跡では、古墳時代・奈良平安時代にかけて形成された集落・墳墓と重複するところが多くある。

山田橋の大塚台遺跡では、道路建設に伴い確認調査を実施しているが、弥生時代後期・古墳時代前期・奈良平安時代にいたる遺構の存在が認められ、昭和60年度に調査を実施し弥生時代後期の住居跡36軒をはじめ古墳時代前期・奈良平安時代の住居跡や掘立柱建物跡を検出した表通遺跡に至る広範囲に渡って弥生時代以降の大集落の形成が明らかとなった。

養老川左岸の台地上北端に占地する浅井小向の釜神遺跡では、弥生時代竪穴住居跡51軒・古墳時代竪穴住居跡6軒・平安時代竪穴住居跡10軒・同掘立柱建物跡2棟や方形周溝墓1基・古墳3基などが検出されているが、特に、遺跡南側斜面部から検出された施設が注目される。当施設は、東西30mにわたって台地斜面部を削り整地し、中央に竪穴の建物・土坑・窯状施設・炉を配置し、東西両翼にはそれぞれ総柱の3間×3間の掘立柱建物を軸線を揃えて設置したものであり、中央部に見られる土坑を結ぶ線上とも軸線を同一とするものである。時期的には出土土器から11世紀の年代が与えられているが、当該期の遺構は台地上の集落跡等からは検出されていない状況から、当施設は集落と併存するものではなく、単独で使用されていたものと考えられるが、用途については不明である。

村田川上流域の調査では、喜多仲台遺跡において本調査を実施し、平安時代初期の竪穴住居跡18軒を検出している。当遺跡では、検出された住居跡の約半数に焼失の痕跡が見られ、遺物が多く出土しているが、中でも鉄製品が多く馬具の轡なども出土している。更に、住居跡から出土した土器には、「大新」「大幡」などと書かれた墨書土器が多く出土するなど注目される成果を得ることができた。

（米田耕之助）



平成4年度 調査遺跡位置図

1. 不入斗元居原遺跡

事業名 市道1093号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市有秋台東3-5

調査期間 平成4年4月1日～平成4年4月15日

調査面積 1,400 m²のうち 140m² (確認調査)

調査概要 JR内房線姉崎駅の南方3kmの地域に広がる有秋台団地の中央部を、南北に貫く幹線道路の延長線部分の改良工事に先行して行われた確認調査である。

東京湾に注ぐ椎津川支流深城川右岸の谷奥台地上標高67mに広がる台地南西面の平坦地で、南北280mを対象として調査を実施した。

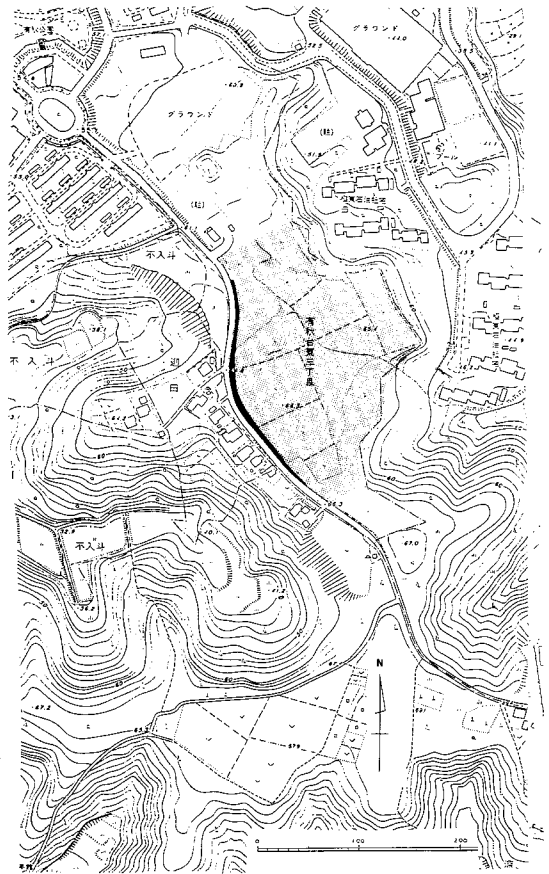
当該地の東側に広がる台地平坦面では、古墳時代から平安時代の土師器片が採集されており付近一帯に古墳時代以降の集落跡の存在が予想されていることから、市原市発行の「市原市埋蔵文化財分布地図」で元居原遺跡として扱われているところである。

付近には、北方有秋台団地の東側に、縄文時代土器を伴出する不入斗古屋敷遺跡、古墳時代から平安時代の土師器片を伴う不入斗上スダレ遺跡、径15mの円墳として古屋敷古墳、13mの不入斗古墳が、また南方400mには縄文時代土器や土師器の散布するヤシ山遺跡の存在が知られている。

確認調査は、現道部分が既に攪乱を受けていることから、現道に沿った形で、南北に細長い地域を対象としてトレンチを設定し掘り下げることとした。

結果は、土師器破片数点と礫数点が出土したのみであり、遺構は一切確認することができなかった。調査区域は、現状では荒蕪地となっているが、かつては畑地として機能していた所であり、土層状況を見ると、土壌の入れ換えが行われた様子を見ることができるものであり、その際に遺構等が損失した可能性もある。

(米田耕之助)



不入斗元居原遺跡位置図

網点区域は元居原遺跡

黒ベタ塗り部分は調査対象区域

2. 喜多^き仲^た台^{なか}遺^{だい}跡

事業名 市道48号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

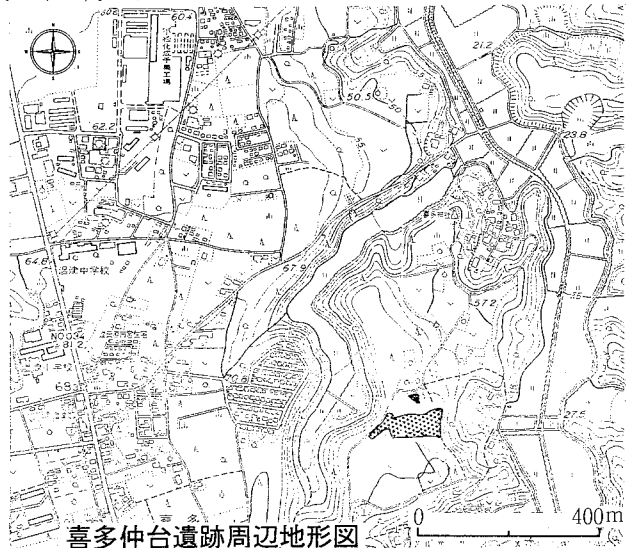
所在地 市原市喜多字仲台60 他

調査期間 平成4年4月1日～平成4年8月31日

調査面積 9,000㎡（本調査）

調査概要 喜多仲台遺跡は、市の北部を流れる村田川上流域の支流によって作られた幅 200～300m のほそ長い台地の平坦部分全域に広がっている。

発掘調査は、この台地中央部分を横断する道路の建設に伴うもので、調査対象面積16,400㎡のうち14,200㎡の部分（残り2,200㎡については未買収地のため後日調査



予定。)を確認した結果、今回、約 9,000㎡の本調査を実施することとなった。

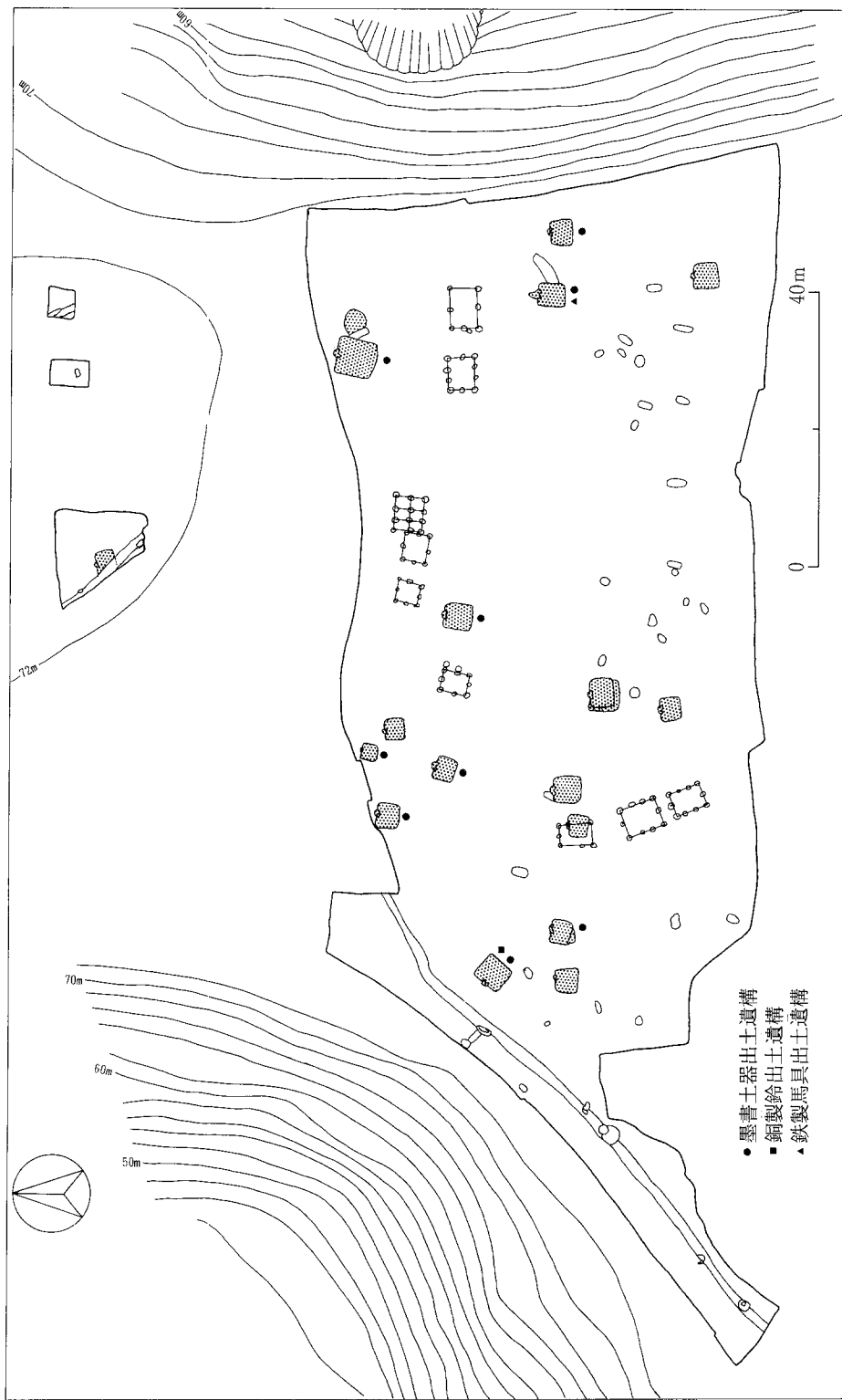
調査の結果、平安時代初期の竪穴住居跡18軒、縄文時代竪穴住居跡1軒、落し穴や土壙29基、平安期の同住居群に伴うものと考えられる掘立柱建物跡9棟、地下式壙3基、中近世の溝跡、道路跡、土壌などを検出した。

このうち、平安時代の住居跡については、約半数が焼失家屋であった。これらの住居跡からは多くの遺物が発見されたが、そのなかでも鉄製品の出土が多く、刀子・手鎌・紡錘車・鉄斧・釘・鎌・火打ち金・鉄製馬具の轡など、およそ40点程見られた。鉄製馬具の轡については、住居の床面に近い部分からの出土で、銜と鏡板で構成されており、鏡板は素環形で全体的にかなり良好な遺存状態であった。調査区東側の住居からは、鉄製・石製の紡錘車や刀子と共に銅製の鈴が出土している。

また、住居跡より出土した土師器の坏からは、墨書土器が十数点含まれており、「大新」・「大幡」と読めるものや「市□」や「丁？」のほか判読不明瞭なものが数点含まれていた。

以上の様に、今回の調査では同時期の住居跡からの出土例があまり無い銅製鈴や鉄製馬具など、また墨書土器の出土など注目される遺物の発見があり、今後検討されることの多い遺跡である。

（小出紳夫）



喜多仲台遺跡全体図 (S=1/1,000)



大幡



大幡
□



大新



大新



大新



大新



大新



丁?



市

出土した墨書土器

3. 南名山遺跡

事業名 市道6018号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市上高根1600 他

調査期間 平成4年6月16日～平成4年6月30日

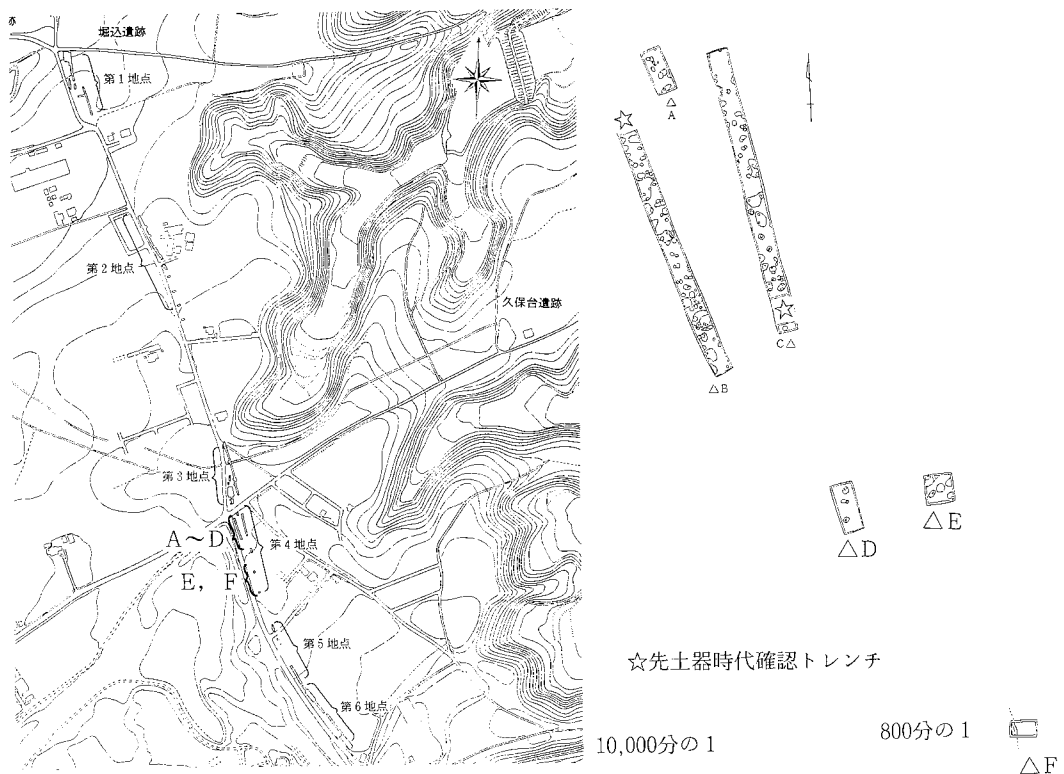
調査面積 1,433 m²のうち143 m² (確認調査)

調査概要 今回の調査は、市原市中高根から上高根にかけて南北に通る市道6018号線の改良工事に伴い、昭和62年度から継続して行われた調査の最終年度となる(図中第4地点)。

確認調査は、北側に現道と並行して2×30mの2本とその間に2×5mのトレンチ、南側に2×3・4×4・2×5mの3ヶ所のトレンチを設定し実施した。また、北側の2ヶ所で先土器時代確認のトレンチ調査を行った。調査範囲全域にピットが散在するが木の根の跡がほとんどであり、遺構は南端トレンチ西側で道路状遺構の一部を検出した。北側は、現道の下に入り込み調査範囲内ではこれ以上確認できなかった。(半田堅三)

なお、当遺跡については既に報告書が刊行されている。詳細は報告書を参照されたい。

財団法人市原市文化財センター調査報告書 第57集『市原市中高根南名山遺跡』平成7年3月



南名山遺跡周辺地形図とトレンチ配置図

4. 釜^{かま}神^{がみ}遺跡

事業名 都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市浅井小向499-1 他

調査期間 平成4年4月1日～平成4年6月15日（確認調査）

平成4年10月1日～平成5年9月31日（本調査）（平成5年度継続事業）

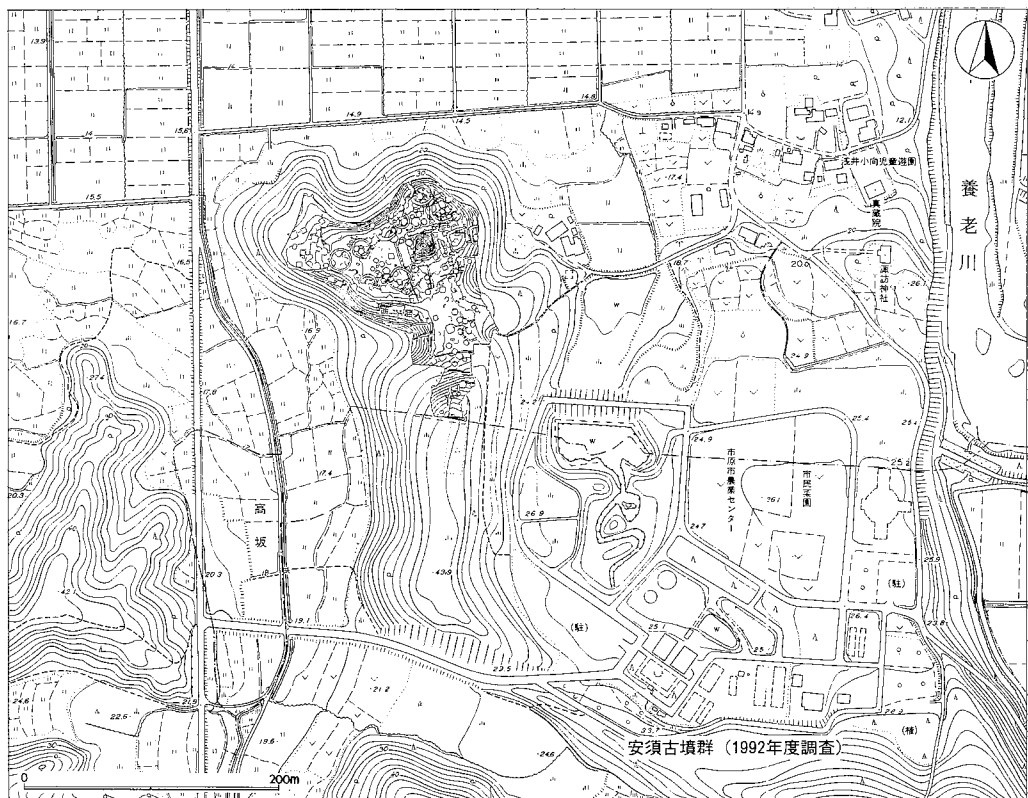
調査面積 23,000㎡のうち 1,380㎡（確認調査）

18,000㎡のうち 7,000㎡（平成4年度分本調査）

調査概要 市農業センターの公園建設にともない、まず、年度当初に確認調査を実施し、その成果をうけ、対象面積23,000㎡のうち18,000㎡に対して本調査を実施することとなった。

本調査は、次年度に継続し、本年度は 7,000㎡を対象とした。なお、対象範囲内には、幕末から明治初期に造営されたと推定される浅間塚をはじめ、3基の塚が存在するが、これらについては、公園内に現状保存されることとなり、本調査範囲から除外されている。

遺跡は、姉崎台地のほぼ北東隅にあたる、養老川左岸の台地上に所在し、養老川右岸の諏訪



釜神遺跡周辺地形図（1/6,000）



台古墳群、天神台遺跡などと南北に対峙する位置関係にある。遺跡の立地する台地は、先端部で東西約300mを測るのに対して、南に向って馬の背状に幅狭となり、先端部が独立丘陵状を呈している。ただ、この先端部も、全体になだらかな傾斜をもち、平坦面は限られている。このためか、台地上では、確認面まで非常に浅く、表土を除去した段階でも篠竹の根が残るような状況で、遺構の遺存はかならずしも良好ではなかった。しかし、弥生時代以降各期にわたる遺構は、内容、数量とも豊富なものとなった。

調査の結果、弥生時代中期から平安時代にいたる竪穴住居跡 234軒、平安時代の掘立柱建物跡 3棟、古墳時代前期の方形周溝墓 5基、古墳時代中期から後期の円墳 9基、土坑49基、溝36条などが検出された。このうち、本年度は、竪穴住居跡67軒、掘立柱建物跡 2棟、方形周溝墓 1基、円墳 3基、土坑21基、溝19条である。

釜神遺跡全体図（1/800）

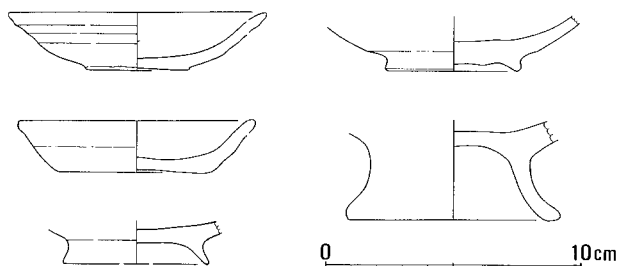
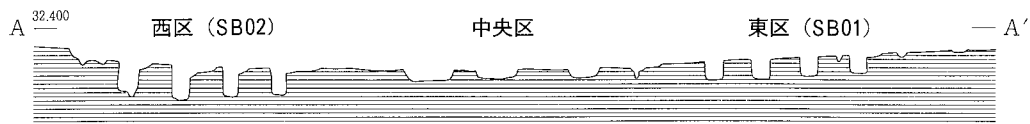
時期的な変遷は、弥生時代中期後半における居住域としての利用にはじまり、居住域、墓域としての土地利用が繰り返されるが、この詳細については、次年度の年報にゆずることとした。

本年度の調査において、最も注目される遺構は、南側斜面部より検出されたS X04である。これは、東西約30mにわたって台地斜面部を削り出して整地面をつくり、掘立柱建物をはじめとする施設群を整然と配置するものであった。台地整形は、ローム層下の粘土層・シルト層を、上端の確認面を基準として最大で約1.5m以上削り出し、東西に3区画をつくる。区画は、東区、西区、中央区と呼称しておくが、このうち中央区は他区に対して若干低くなり、掘形面は黄白色の砂層に達している。ただし、この中央区ではローム土を含む整地土を入れて生活面としており、北側の削り出しによる斜面部についても、掘形面より内側に立ち上がりが見られた。これに対して、東区は、全体に若干傾斜をもち、削り出しの範囲も他区より明瞭ではなかった。

この3区のうち、両翼の東区、西区には総柱の掘立柱建物を各1棟配置している。東区の掘立柱建物S B01は、3間×3間の総柱の建物である。柱間寸法は、東西、南北とも等間であり、全体で心々間約4.7mの方形建物となる。建物の方位は南北を基準にしてN-6°30'-Eである。柱掘形はほぼ円形で、径65cm、柱痕跡15cm程度を測る。建て替えは認められない。西区の掘立柱建物S B02は、東西、南北辺とも約4.8m、方位はN-7°30'-Eであり、S B01とほぼ同規模同方向で柱筋をそろえる。やはり、建て替えは認められない。この2棟の掘立柱建物の掘立柱掘形の埋土には、土坑、竪穴建物の覆土や、中央区を中心として各区から多量に検出された焼粘土塊、焼土粒が認められないことから、ともに当初から建てられていたものと判断される。ただし、S B02は、柱がすべて抜き取られており、S B01とは廃棄段階の状況を異にする。

中央区では、竪穴の建物1軒と4基の土坑、北東隅には半地下式の竪形炉、そして明確な掘り込みをもたない炉が9基検出されている。このうち、竪穴建物S I08は、東西辺で約3.1mを測る。カマドは確認できなかったが、中央部床面が焼けて赤化していた。出土遺物の一部を図示しておくが、他に、内面全体にミガキ黒色処理を施すものもある。また、作業台として使用されたと推定される須恵器大甕の胴部破片が出土している。土坑は、中央部に長軸65~84cmの皿状のものが3基、掘立柱建物の柱筋にあわせて検出された。これにともなうと考えられる遺物は出土していない。他に1基、円形土坑S K08が東区との境界部より検出された。ここからは、S I08とほぼ同時期の土器片が出土している。

中央区北東隅の炉は、3時期以上の燃焼面が重複している。それぞれは径1m程度の炉状を呈し、焼土、灰、繊維質の炭化物が多量に堆積していた。うち1基からは、口径9.0~9.5cm前後の完形のロクロ土師器小皿が5点まとまって出土している。その上部構造については明確

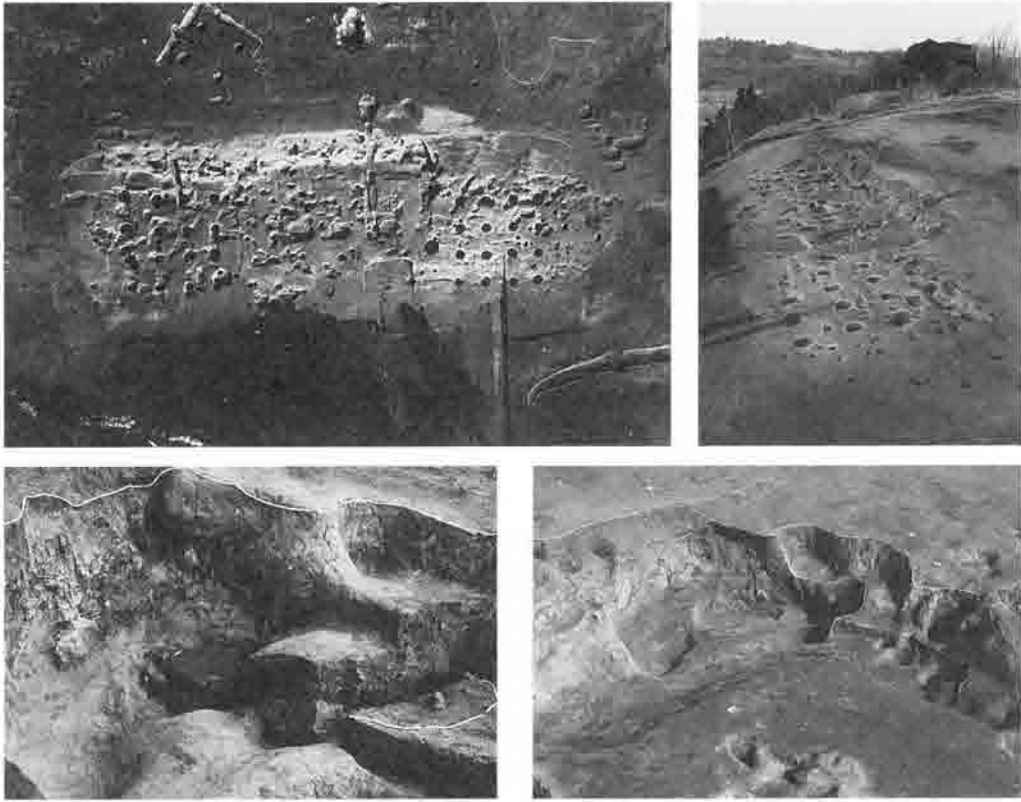


0 10m

SX04全体図 (1/250) および中央区竪穴SI08出土土器 (1/3)

な痕跡を残していなかったものの、寸紗入り焼粘土塊が中央区を中心として多量に出土しており、これが壁材にあたる可能性が高い。ただし、これらの表面には発砲等の痕跡はみられず、焼成温度はさほど高温ではないと思われる。

SX04を仮になんらかの生産跡とした場合、この窯状の炉は、全体の性格を規定するようにも思われるが、その製品が判然としない。燃料材については植物珪酸体分析から、タケ亜科や栽培種のイネ属が使用されたことが推定されているが、炭化層の洗い出しによって種実などはまったく検出されていない。また、前面の覆土も一部水洗をおこなったが、焼粘土塊以外、例



S X04全景（上） S X04中央区北東隅炉状施設（下）

えば鉄滓や炭なども認められなかった。

出土したロクロ土師器小皿を製品とする可能性もあるが、斜面部にわたる調査のなかで、この段階の土器そのものが非常に少なく、焼き損じなどもみられない。今後実施されるであろう整理作業へ向けて、課題を残しておくこととする。

なお、S X04の年代は、出土土器から11世紀代と推定されるが、同時期の遺構は、次年度調査範囲を含め、まったく検出されなかった。

釜神遺跡全体の状況については、下記において概要を発表している。

（大村 直）

大村 直 1994 「釜神遺跡」『第9回市原市文化財センター遺跡発表会要旨 平成5年度』
 市原市文化財センター

5. ^{やま だ ばし おお つか だい}山田橋大塚台遺跡

事業名 都市計画道路草刈西広線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市山田橋332 他

調査期間 平成4年8月1日～平成4年10月15日

調査面積 10,000㎡のうち 1,000㎡ (確認調査)

調査概要 市原台地の中央、新田川の最上流部の、標高34mの台地上をほぼ東西に横断する全長約 300m幅20～40mにおよぶ範囲を対象に確認調査を行った。

南西端に山田橋大塚台古墳があり、東端から北にかけては山田橋表通遺跡がある。さらに北に能満東千草山遺跡、その北西に山田橋亥の海道具塚がある。表通遺跡と大塚台遺跡の間も、平成6年以降山田橋大山台遺跡として調査される。

西端では、山田橋大塚台古墳の北側周溝が検出された。4本のトレンチによると、幅7m以上、深さ約1mを測りほぼ円形にめぐっており、古式の円墳となる可能性が高い。

この周溝の北から北東にかけては、トレンチごとに住居跡があるといった密集状態で、時期は弥生時代後期と古墳時代後期が主体となる。西側では、縄文時代の土坑が幾つか検出されている。内部に焼土が認められるものもあり、大部分が縄文時代早期の炉穴である。

中央部は耕作による攪乱が激しいが、その間から幅4mを測る南北の浅い溝状遺構が検出されている。両側に浅い側溝状の溝があり、中央が踏み固めにより硬くなっている。これは、表通遺跡の西北端で検出された道路跡の延長と考えられる。

この付近からまた住居跡が多くなり、北の大山台遺跡から表通遺跡へ続く集落を形成するものと思われる。弥生時代後期が主で、古墳時代前期と奈良平安時代のものも含まれている。

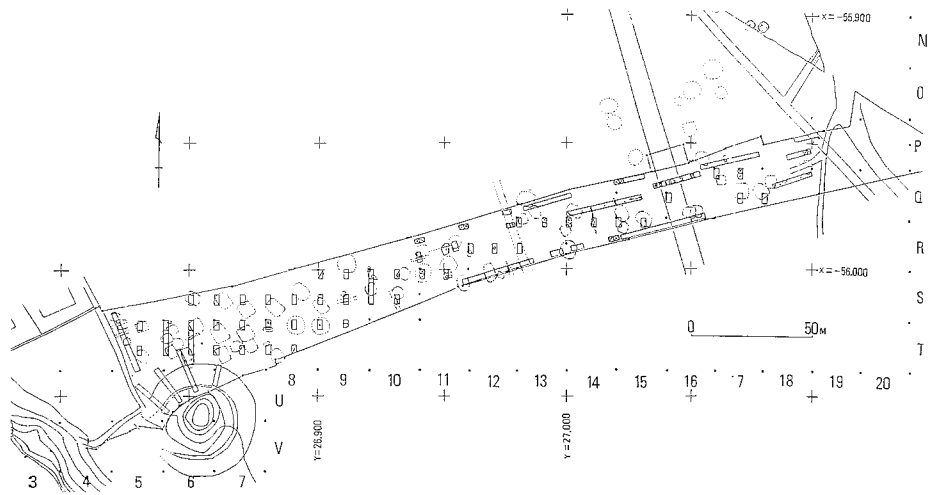
調査範囲の東端で、北西から南東の方向に幅6m深さ0.7mの、東側に側溝状に一段深い部分のある溝状遺構が検出された。そこから約70m西に幅9m、深さ2mを越える溝状遺構がある。これは、大きく3時期にわたって掘りなおされたもので、東千草山遺跡南端で検出され、表通遺跡南寄りで分岐が検出された道路跡の延長である。この2本の道路跡の間では遺構は極端に少なくなっている。

なお、当遺跡は、平成5年度に本調査が行われ、その成果と近隣遺跡を合わせた概要を『日本考古学年報』に掲載しているため、報告書の刊行まではそれを参照されたい。

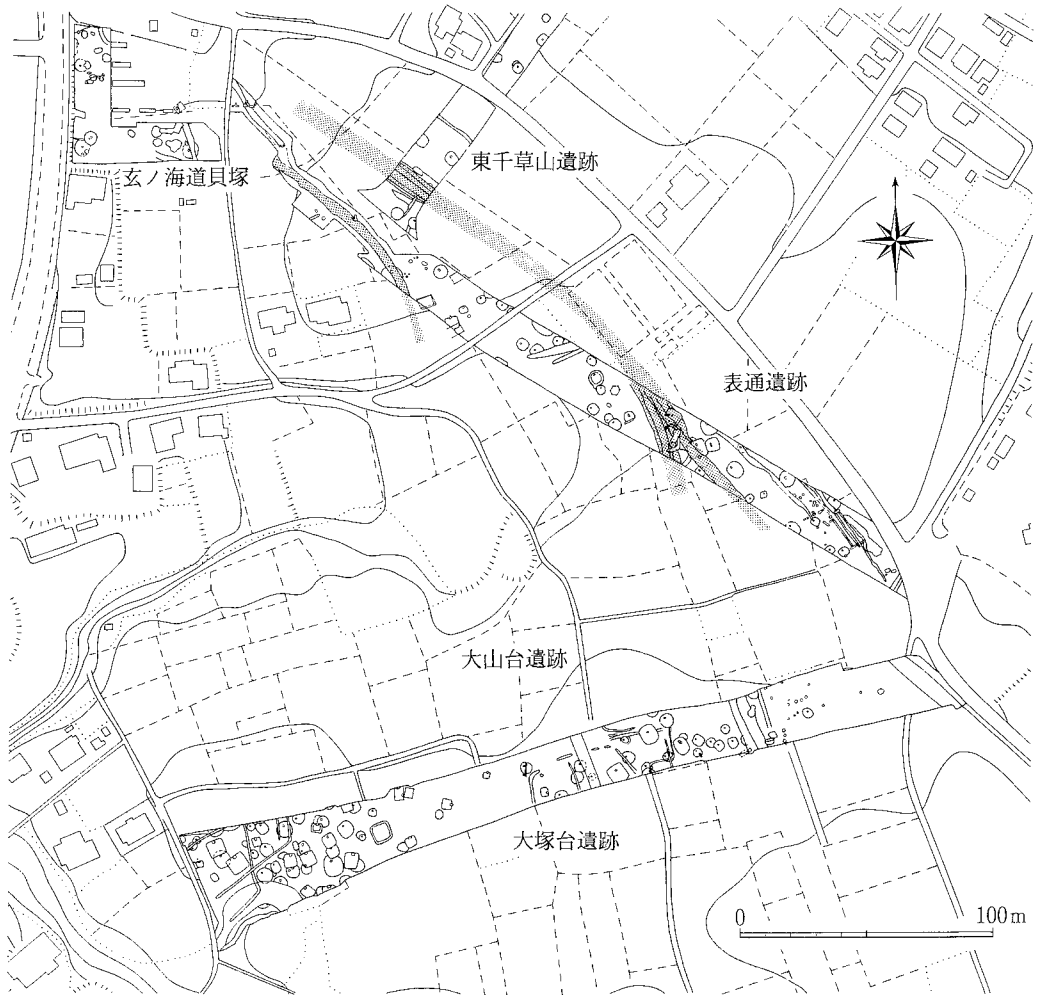
(半田堅三)

半田堅三「Ⅲ1993年度に注目された発掘調査の概要 12千葉県市原市山田橋大塚台遺跡」

『日本考古学年報46-1993年度版』1995年7月 日本考古学協会



山田橋大塚台遺跡確認トレンチ配置図



山田橋大塚台遺跡全体図

6. 潤井戸天王台古墳

事業名 都市計画道路草刈・西広線（久々津地区）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市潤井戸字天王台2270-7

調査期間 平成4年6月1日～平成4年7月31日

調査面積 3,600 m²のうち360 m²（確認調査）

調査概要 千葉市と市原市の境を流れる村田川支流の神崎川右岸台地上西縁部に南北に展開する古墳群で、現状で26基の古墳盛土が観測されているところから、「市原市埋蔵文化財分布地図」で潤井戸天王台古墳群として扱われている。

古墳群は、南北に二分した形で存在し、北側部に15基、南側部に11基が南北に連なるように配置されているもので、そのうち、北側部の最北域を南北に貫くように道路建設が予定されていることから、工事に先行して確認調査を実施したものである。

当該道路の建設に伴う埋蔵文化財調査としては、昭和62～63年度に天王台古墳群の北方 300mの潤井戸居鞍古墳が、また、更に北方1kmの潤井戸西山遺跡が昭和59年度に実施されている。

今回の調査は、それらに引き続いて同一路線上の遺跡調査として古墳群を対象として実施したものであり、古墳5基の存在が確認されている。

これらの古墳は円墳として捉えられるもの4基と方墳と思われるもの1基（古墳北側の周溝は検出されていない）であり、径30m級2基、20m級3基である。

また、古墳下層遺跡として、縄文時代早期の稲荷台式期の土器片を伴出する土坑や包含層、時期不明の溝条遺構等が検出されている。

（米田耕之助）



調査区域現況図

あね さきひがしはら
7. 姉崎東原遺跡 D 地点

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市姉崎東原2713-1

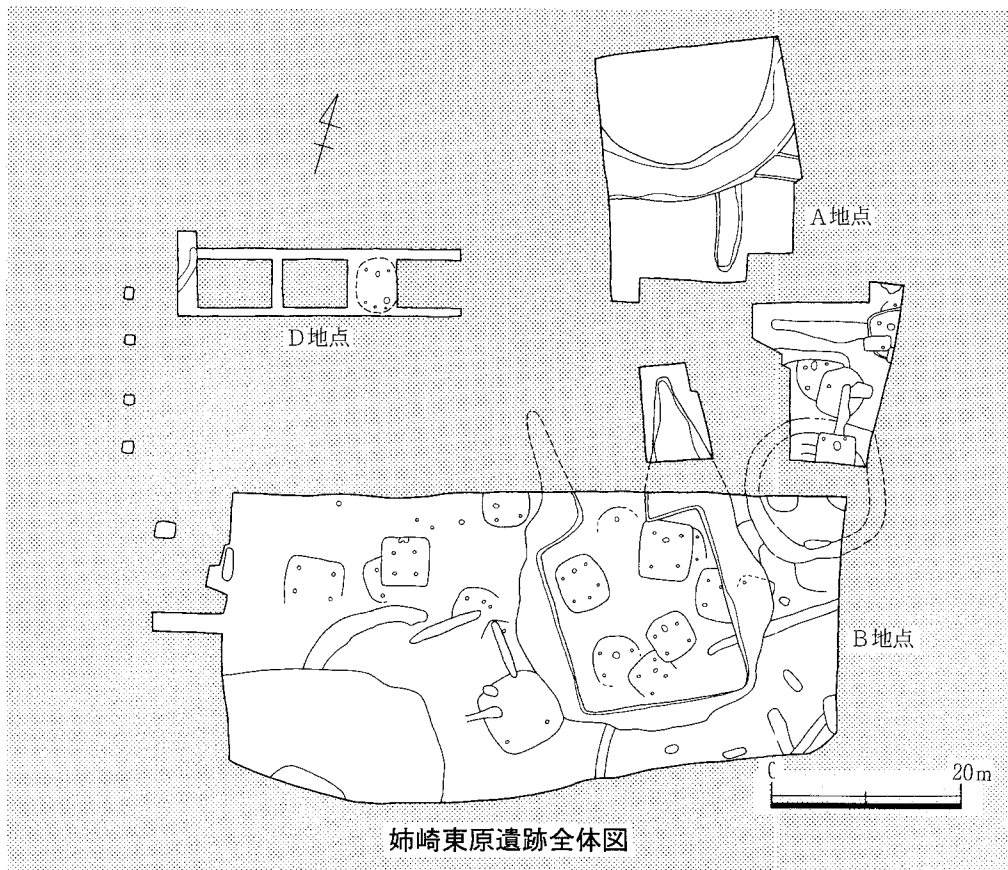
調査期間 平成4年7月21日～平成4年8月3日

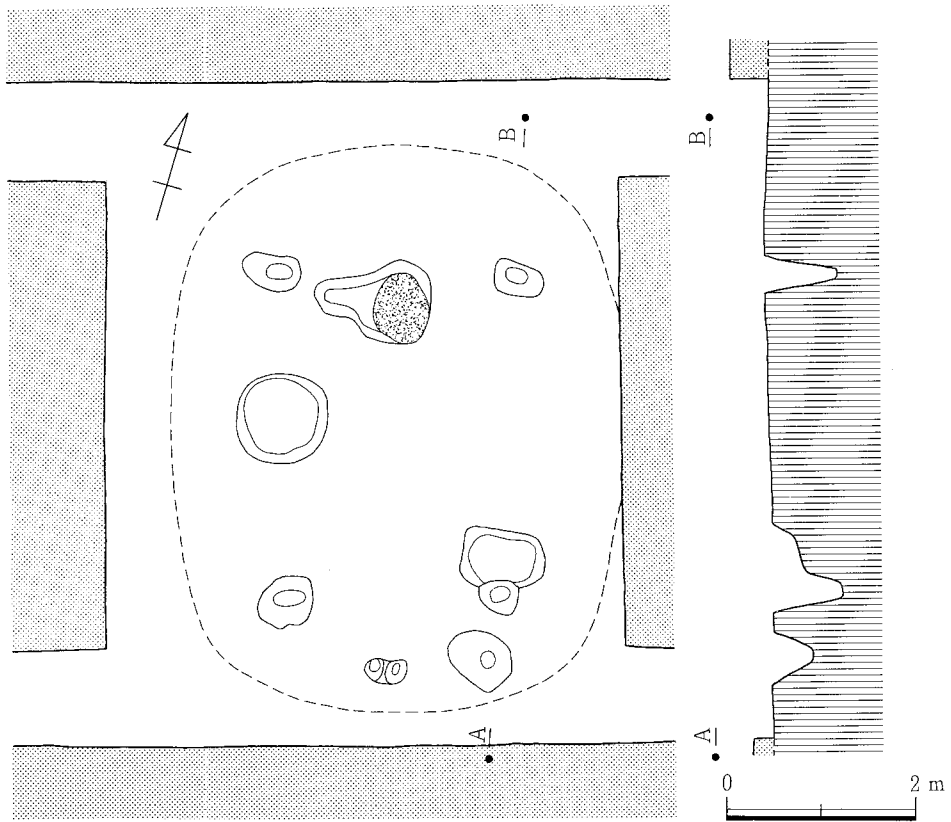
調査面積 635 m²のうち100 m² (確認調査)

調査概要 JR内房線姉ヶ崎駅の東南域には、市内でも有数の大型前方後円墳が点在しているところから姉崎古墳群と呼ばれている。この地域は「上海上国造」勢刀の領域であり、当古墳群には、市内最大級の規模を誇る前方後円墳が幾つも存在し、4世紀から7世紀にかけて連続的に築造されている様相から、姉崎古墳群はこの地域の首長墓群として捉えられている。

これら古墳群の中で、主軸長 115mと最も大きく、また、前方部が細長で低い形態から古式の様相を示している天神山古墳の南側に隣接した地点に、住宅建設が進められることとなり、東原遺跡D地点として国庫補助事業による確認調査を実施した。

この地域は、昭和62年にA地点の確認・本調査、平成2年にB地点の確認調査、そして、平成4年にB地点の本調査が実施されているところであり、それらの状況を踏まえて今回確認調



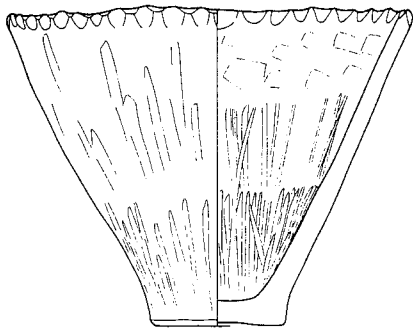


姉崎東原遺跡D地点検出住居跡

査を実施したものである（D地点）。

今回の地点は、遺跡全体図を見ても明らかなように、弥生時代の住居跡群や、前方後円墳・円墳等の古墳が検出されている地点の北西部に位置しているため、当初多くの住居跡等の遺構が発見されることを予想していたが、トレンチ調査の結果、周溝状遺構と住居跡1軒が検出されたに止まっている。

住居跡は、上図に見るように、地表面から遺構検出面まで20~30cmと浅く、遺構検出面もハードルーム面が露出している状況であったため、所謂住居の壁面は残存していなかったが、柱穴・炉跡の検出により、住居跡の規模は大凡把握されている。



また、住居跡内南東隅部から確認面66×53cm、深さ44cmの深鉢状ピットが検出され、左図に掲げた器高13cm、口縁部に指頭押捺による波状を特徴とする深鉢形土器が出土したことにより、本住居跡を弥生時代中期の所産として捉えることができた。（米田耕之助）

8. 江子田送り神塚

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市鶴舞1,158-2～3

調査期間 平成4年8月4日～平成4年9月16日

調査面積 300㎡のうち210㎡（確認・本調査）

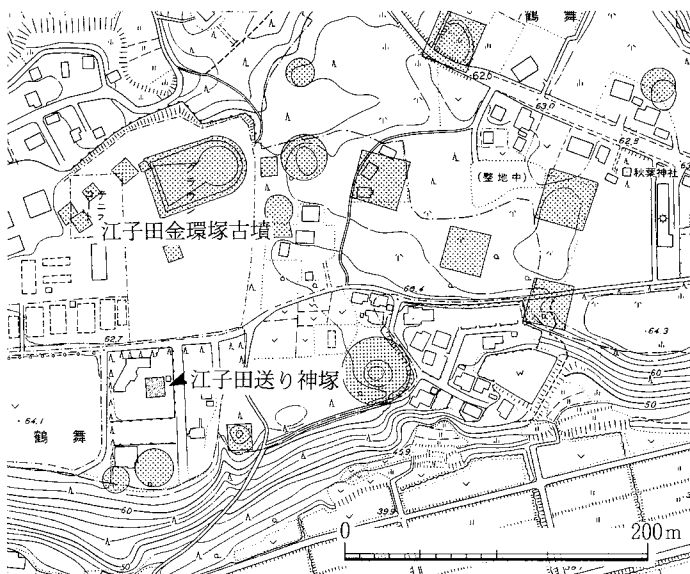
調査概要 養老川中流域の牛久市街地から東南1.5kmほどの台地上には、多くの古墳が点在しているところから、江子田古墳群と呼ばれている。

中でも、現在県立市原園芸高等学校のグラウンドとなっている地点に、かつて瓢箪塚と呼ばれていた二重周溝を巡らす前方後円墳があり、昭和38年の調査で主体部から金環・馬具・玉類が発見されたことにより、江子田金環塚と呼ばれるようになった。当古墳はその後の調査で周溝外側も含め全長63mに及ぶ6世紀前半の楕円形前方後円墳であることが明らかとなり、牛久周辺では際立つ存在から、当該地首長クラスの墓と考えられている。

今回、金環塚古墳の南方130mに位置する47号墳域に、個人住宅の建設が行われることとなり、調査を実施したものである。

調査の結果、47号墳は当初の予想とは異なり、塚であることが明確となったため、字名を用いて江子田送り神塚とした。平面形態は方形に近く、東西13.3m、南北13m、1m程の盛土を有している。

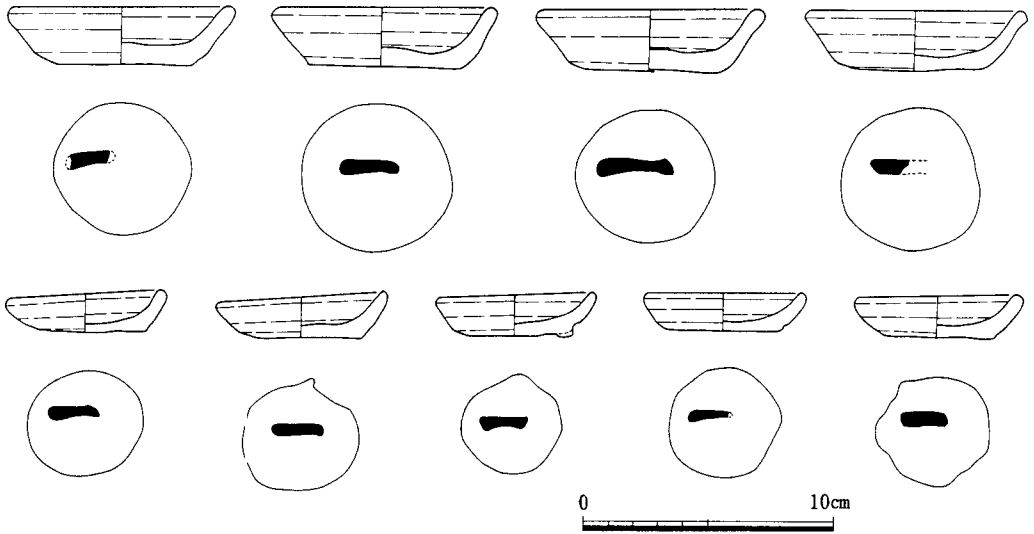
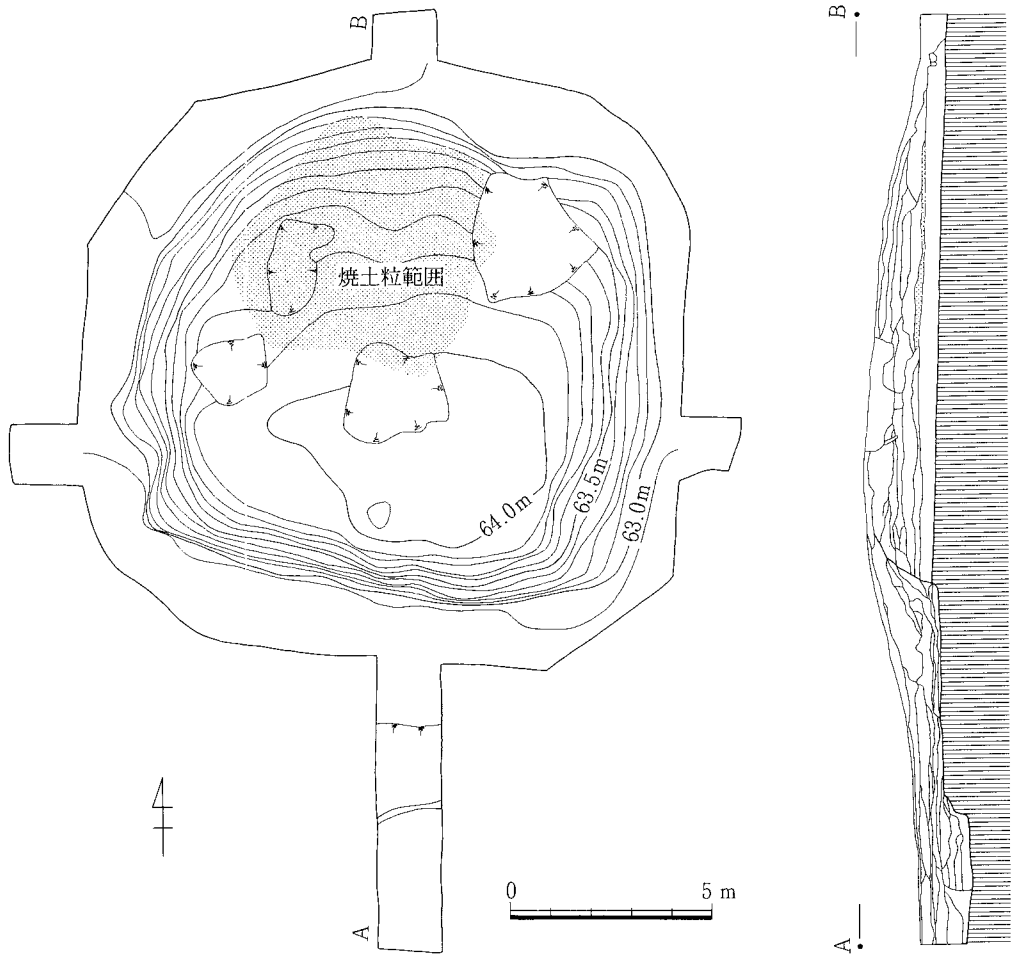
北側部の盛土最下層（旧表土直上）から、図中ドットで示した6m程の範囲に渡って、多量



江子田古墳群と周辺地形図

の焼土粒を含む暗黒褐色土層の広がりを確認している。

この土層で特徴的であったのは、二つの地点に分かれて14個ずつ計28個のカワラケ（13点については底部に『一』の字の墨書が描かれている）が出土していることであり、また、寛永通寶・洪武通寶等の古銭6枚も検出されていることから、塚構築に際し、護摩を炊くなどの祭祀行為が行われていたことを窺わせている。（米田耕之助）



盛土地形測量及び盛土下層出土遺物実測図

お お ま や か し や ま え だ い

9. 大 厩 鍛 冶 屋 前 台 遺 跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市大厩字鍛冶屋前台990

調査期間 平成4年10月5日～平成4年10月21日

調査面積 2,971㎡のうち290㎡（確認調査）

調査概要 市原市の最北部を東西に流れる村田川の流域には、貝塚・古墳等の遺跡が多く分布しているところであり、養老川流域と並んで埋蔵文化財の宝庫とも言える地域である。

右岸域では、近年発掘調査例が増加し、低地部での千葉市神門貝塚の調査あるいは草刈地域の大規模宅地造成に伴う埋蔵文化財調査が行われ、貴重な成果が挙げられている。また、左岸域では、河口近く菊間の地において手永貝塚や菊間遺跡の調査が、更に大厩地区では大厩浅間様古墳、大厩遺跡、大厩弁天台遺跡等の調査が行われている。

大厩浅間様古墳は、直径50mと大厩古墳群中最大規模を誇る大型円墳で、主体部から石釧・珠文鏡・管玉・ガラス玉・琥珀製勾玉などの副葬品が出土し、墳丘下から弥生時代中期の方形周溝墓・環濠・後期の住居跡が検出されている。また、大厩遺跡では、弥生時代中期の環濠集落跡や後期の集落跡、古墳時代では、前方後円墳・円墳・方墳・帆立貝式前方後円墳や集落跡が検出され、更に、弁天台遺跡においても円墳や住居跡が発見されるなど、当地域が広く弥生



大厩鍛冶屋前台遺跡と周辺地形図

時代から古墳時代にかけて集落或いは墓域として利用されていたことを窺わせている。

こうした大厩地区の一角を占める鍛冶屋前台の地において、個人住宅の建設に先行して今回確認調査を実施したものである。

当地は、遺跡周辺地形図に見るように、大厩遺跡群西側の東方から西方にかけての緩斜面上であり、調査にあたって南北方向のトレンチを18カ所設け、遺構・遺物存在の確認を行った。

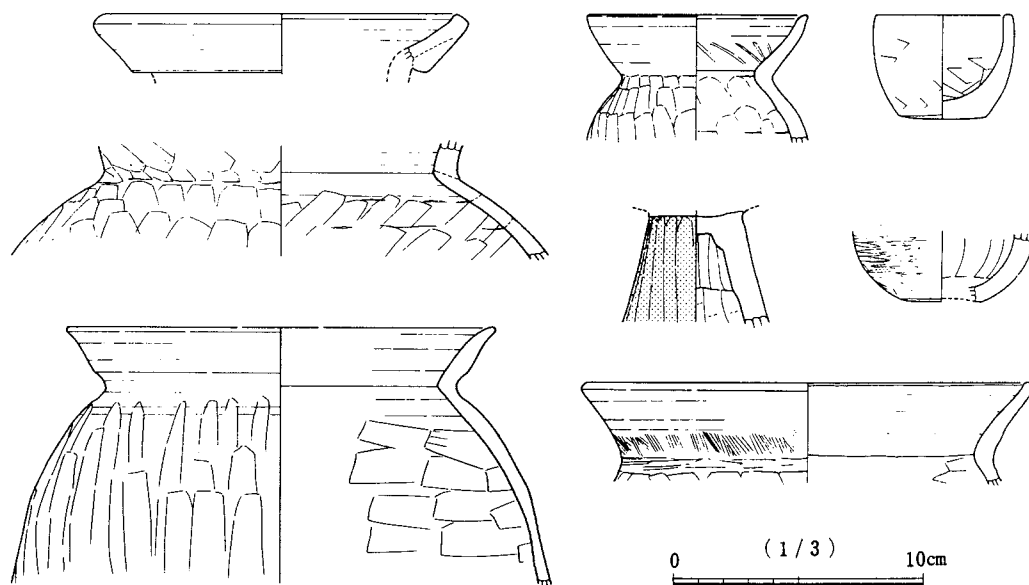
遺構検出面までの深さは、場所により異なり40～70cmほどであり、土層は基本的に3層に区分されている。上層は所謂表土で耕作等による攪乱層であり黒褐色土、中層は褐色ブロックを含む暗褐色土、下層は褐色ブロックを含む黒褐色土であり、その下にソフトロームの堆積が見られる。

遺構の掘り込み確認面は、中層・下層からのものが見られるところから、中層部において往時の生活面が存在しているものと思われる。

発見された遺構は、住居跡32軒、土壇14基の他、ピットや柱穴列状の遺構存在が確認されている。住居跡は平面形態が楕円形を呈するもの8軒、方形を呈するもの24軒であり、伴出遺物から弥生時代～古墳時代にかけての集落跡の存在が予想されている。

出土遺物は、確認調査の関係上遺構内を掘り下げていないため、遺構確認面からの出土遺物が大半を占め、小片が殆どであるが調査区全域に渡って出土している。

下図に、出土遺物として土師器の実測図を掲げたが、この他に弥生時代中期～後期の土器も出土している。(米田耕之助)



大厩鍛冶屋前台出土遺物実測図

10. 原太稲荷塚

事業名 岩崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市岩崎454-1

調査期間 平成4年5月1日～平成4年5月29日

調査面積 340㎡（本調査）

調査概要 養老川河口の海岸平野上、標高 1.1mに所在する塚1基の調査である。塚周辺の現況は水田・畑地となっている。調査方法は、塚の表面の草刈り、立ち木の枝はらいのち測量し、形態と規模を明らかにし、塚の長軸・短軸に合わせて中央で直角に交差する幅 1.7m程のトレンチを設けて塚の盛土を除去し、堆積状況と遺物の有無を確認した。その結果、塚の形態は長軸17.5m、短軸13.5mの長方形で、高さ 1.8mの規模をもち、盛土は表土以下色調・粘性の異なる3枚の砂層から成っていることが明らかとなった。盛土中より、近世陶磁器片・管状土錘・古銭数点・瓦多数が出土した。（忍澤成視）

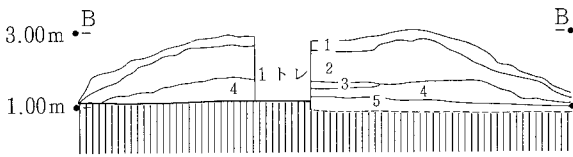
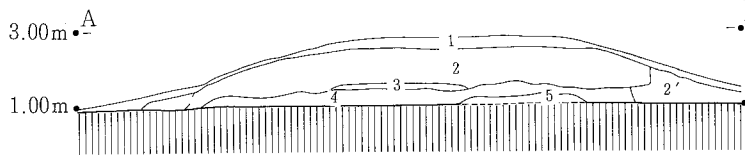
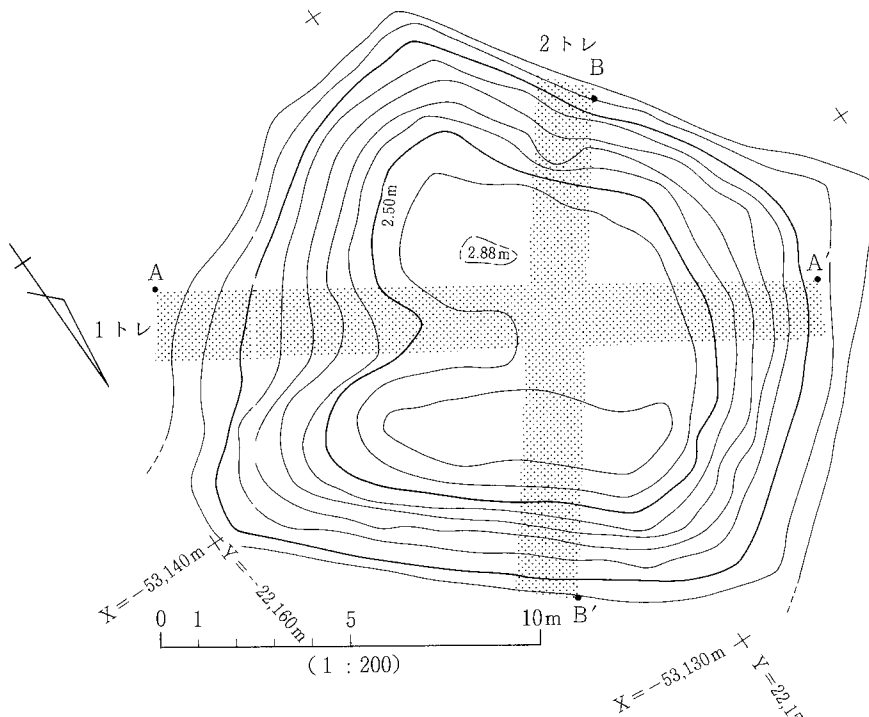


塚遠景

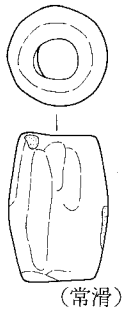


第1トレンチ

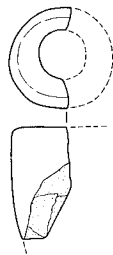




- 1 表土 暗褐色土
- 2 褐色砂層 細粒・均質
- 2' " 根によるカクランを多く受ける
- 3 茶褐色砂層
- 4 褐色砂層 ややしilt質 ややしまりあり
- 5 暗褐色砂層 4よりsiltの混入多くしまりあり 酸化鉄分を含む



(常滑)



0 1 5 cm

(1 : 2)

原太稻荷塚と出土遺物

こおりもと 11. 郡本遺跡群

事業名 上総国府推定地確認調査

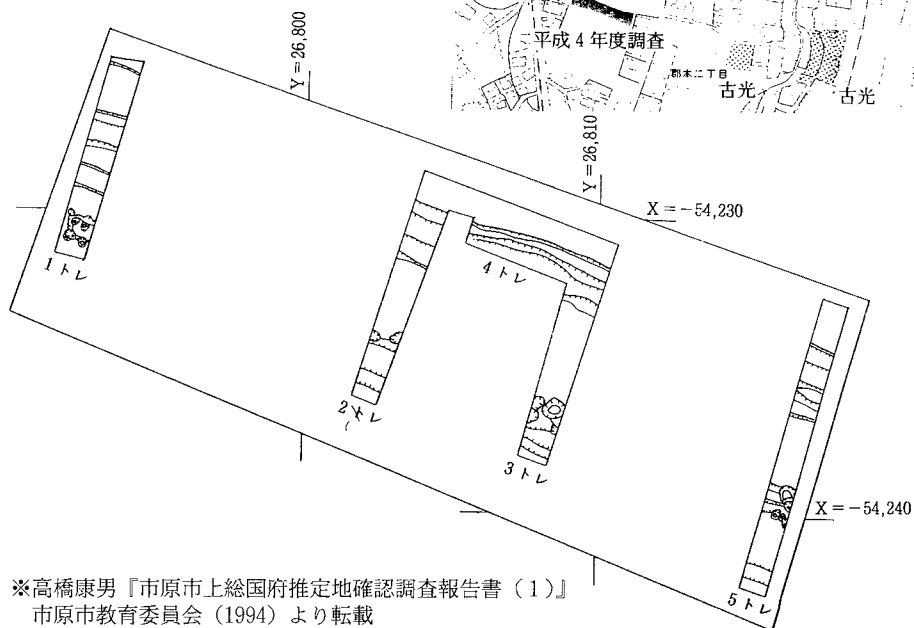
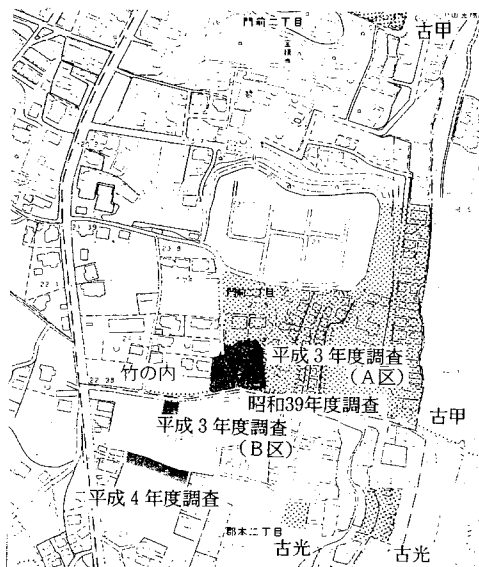
所在地 市原市郡本2丁目46番地

調査期間 平成5年2月1日～平成5年2月26日

調査面積 150㎡のうち41.8㎡（確認調査）

調査概要 平成4年度には、平成3年度調査区の南側に残る東西方向の地割りを対象として、確認調査を実施した。

調査によって確認された遺構は、幅8m・深さ約2m前後の、比較的規模の大きな溝であり、地割りに沿った方向で調査区の東西に延びていることが、確認された。調査区東端の第5トレンチ西壁部分の土層観察結果から見ると、数度の掘り直しによって溝の位置が北側に若干移動している。本来は幅5m前後の溝と考えられる。 (田所 真)



※高橋康男『市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)』
市原市教育委員会(1994)より転載

古甲遺跡大溝平面図(1/200)

12. 安須^{あず} 1・2号墳

事業名 ゴルフ場用道路（安須地区）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市安須字金堀939

調査期間 平成4年4月15日～平成4年11月30日

調査面積 1,092 m²（本調査）

調査概要 養老川河口を望む右岸台地は、上総国分寺跡をはじめとして縄文時代から中世に至る各時代の遺跡が集中し、国分寺台遺跡群として全国的に周知の遺跡群を形成している。

この国分寺台遺跡群の分布する台地から南方養老川を挟んで対峙する台地上にもいたるところで集落あるいは古墳群が形成されているが、その中で安須と呼ばれている地域において、道路建設が計画され、事業地域内に2基の古墳が存在していることから、今回発掘調査を実施したものである。

安須地区の南北に広がる台地上には、肉眼による現状観察で盛土の確認できる古墳が26基あり、その内最も北方に位置する1・2号墳が今回の調査対象古墳である。

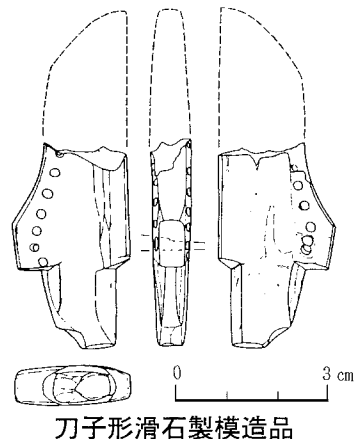
1・2号墳は現況地形測量図を見ても明らかなように、墳丘の高まりを確認することができるもので、調査の結果、共に平面形態方墳状の周溝が検出されているが、南側部分の周溝は流失によるものか、あるいは地形上の制約により当初より構築されなかったものか判断し難い。

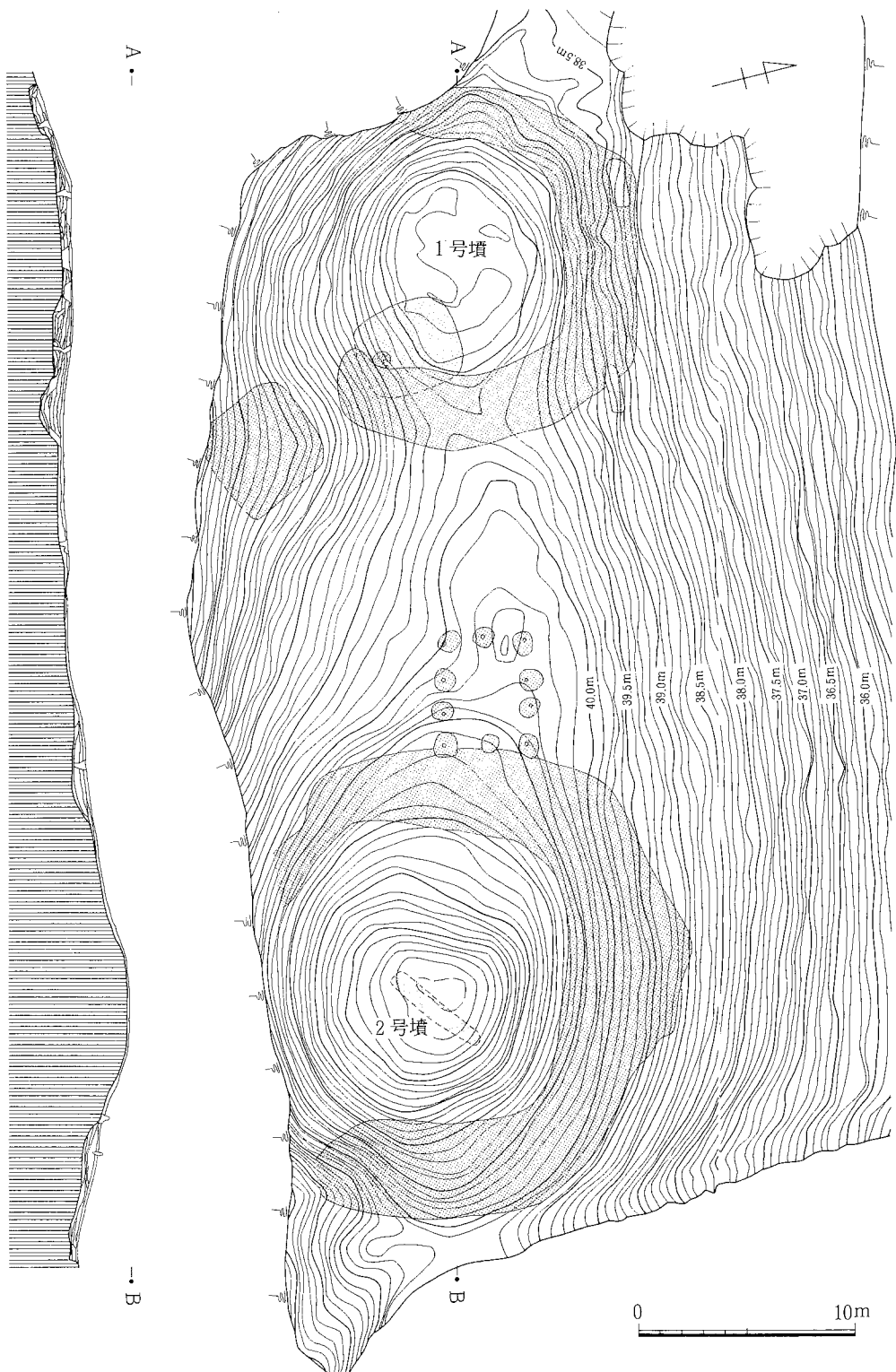
主体部は、1号墳では墳頂部から何らの痕跡も発見できず、北側周溝底面において長方形の土壌を2基検出したが伴出遺物はなかった。一方2号墳では現表土直下から下図に掲げた刀子形滑石製模造品が出土し主体部の発見が期待されたが、攪乱内から鉄鏝が検出されるなど不明瞭な要素が多く、図上主体部は推定として位置・範囲を示したものである。

この他、2号墳では旧表土上面から曲刃鎌が、墳頂表土直下から赤彩土師器が、また、周溝内から高杯をはじめとする土師器等が出土している。

古墳以外の遺構として、住居跡・掘立柱建物跡等が検出されている。住居跡は、1号墳南東側周溝と重複する形で隅丸方形の弥生時代住居跡が1軒と、更にその南東側斜面部で方形な平面形態を持つ遺構が検出されているが、当跡は竈・柱穴・硬化面を伴っていない。また、掘立柱建物跡は2号墳の周溝西側部に接するように東西方向に主軸を持ち桁行3間(4.7m)、梁行2間(3.8m)を計る規模で検出されている。

なお、当調査については、既に本報告書が刊行されているので、詳細については報告書を参照されたい。（米田耕之助）





安須 1・2号墳地形測量図及び 1・2号墳関連図

13. 姉崎東原遺跡B地点

事業名 宅地造成（姉崎東原地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市姉崎字東原2715

調査期間 平成4年4月1日～平成4年7月20日

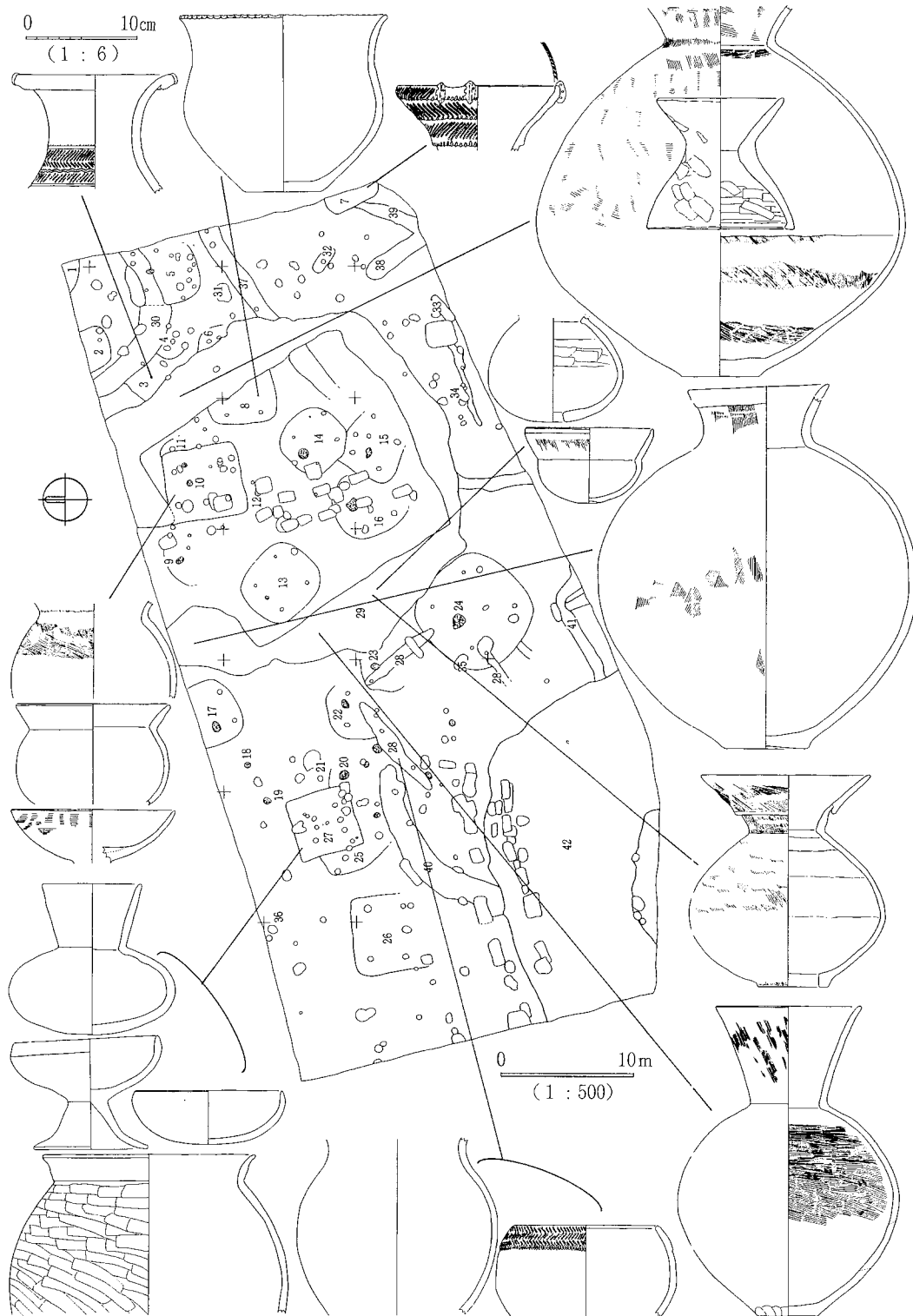
調査面積 2,100㎡（本調査）

調査概要 遺跡は養老川下流域南岸を望む標高約36mの台地上に所在する。付近には姉崎天神山古墳・釈迦山古墳・山王山古墳などの大型古墳が散在し、同台地上には式内社の姉崎神社も鎮座している。本遺跡は姉崎古墳群として包括されるものであり、古墳群形成の全体的な流れのなかに位置付けて遺跡自体の性格を理解していく必要がある。なお、今回の調査区は、昭和62年度の調査により弥生時代中期宮ノ台式期の住居跡と円墳の周溝の一部が検出された姉崎東原遺跡と隣接している。

今回の調査の結果、弥生時代中期から開始される集落と、その廃絶後の墳墓であることが明らかとなった。遺跡としては、弥生時代中期から後期にかけての住居跡24軒、古墳時代前期初頭の住居跡1軒、古墳時代後期住居跡2軒、弥生時代後期の方形周溝墓1基、古墳時代前期の前方後方墳1基、円墳1基などが検出された。方形周溝墓は弥生中期の22・23・24号住居跡を切って造られている。一方、前方後方墳は周溝が全周しない形状で、古墳時代前期初頭に比定した10号住居跡を切って構築されている。本来存在したと思われる低墳丘や主体部は、後の削平のため失われていた。この削平のなされた時期については不明である。可能性として隣接する姉崎天神山古墳の墳丘築造が挙げられるが、資料上の制限から断定できない状況である。なお、これらの遺構の他に、遺跡を東西に横切る地割れも検出された。地震または豪雨が原因の可能性として報告書に指摘されている。地割れの形成時期は弥生時代後期の住居跡に先行するものであった。遺物は、先に述べた削平による遺構遺存状態の悪さに起因してか、全体的に少なく、遺構に確実に伴うものもあまり見られなかった。住居跡からは宮ノ台式土器が最も多く弥生後期土器の出土量を凌駕している。前方後方墳においては、周溝の西くびれ部から集中して遺物の出土が見られた。上層より古墳時代後期、下層より古墳時代前期の資料が検出されている。後者が遺構に伴う遺物群と捉えられ、小型丸底埴・小型器台・大型埴・二重口縁の底部穿孔土器・折り返し口縁の大型壺などが出土した。

なお、報告書が既に刊行されているので、詳細は下記を参照願いたい。（櫻井敦史）

『市原市姉崎東原遺跡B地点』（助）市原市文化財センター調査報告書第51集 1992 高橋康男



姉崎東原遺跡 B 地点遺構配置図

いりやまず おおみや
14. 不入斗大宮遺跡

事業名 宅地造成（青葉台地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市不入斗字下大宮1477

調査期間 平成4年5月16日～平成4年6月15日

調査面積 20,000㎡のうち400㎡（確認調査）

調査概要 姉崎の地で東京湾に注ぐ椎津川支流の片又木川右岸に広がる台地上南縁部に位置している。その北側は青葉台団地の建設に際し削平されており、台地南縁斜面と団地に挟まれ僅かに残された標高47mを計る平坦面部について確認調査を実施した。

当該地は、かつてテニスコートが設置されていたことから、腐蝕土層部分が既に失われていたが、調査の結果、調査区の北端部から南北2m、東西1mの規模を持つ縄文時代早期の炉穴跡1基が、また、調査区中央部の北寄りに長さ15m、幅2.5m、深さ20cmの規模を持つ古墳時代の溝跡1条が検出されている。

出土遺物は、縄文時代早期及び後期の土器片と古墳時代後期の土師器片が少量発見されている。また、調査区の西側を主として江戸時代と思われる地形整形窪地面が検出されている。

（米田耕之助）



調査地区位置図（1/5,000）

15. ^{のう まん かみ こ}能満上小貝塚遺跡

事業名 トラックターミナル建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満字上小貝塚1926-15 他

調査期間 平成4年7月16日～平成4年9月24日（確認調査）

平成4年11月11日～平成5年3月31日（本調査）

調査面積 13,927㎡のうち1,392㎡（確認調査）、5,735㎡（本調査）

調査概要 《遺構》縄文時代中期後葉から晩期中葉までの住居跡36軒、土坑（貯蔵穴・陥し穴・集石など）158基、弥生時代後期の木棺墓1基、時期不明の溝2条が検出された。遺物としては、縄文時代中期後葉から晩期後葉までの多量の土器、土製品、石器・石製品が検出されている。特に縄文晩期の住居跡から検出されたイノシシ形土製品・手燭形土器・土偶・土版・円形土版・ヒスイ製垂飾・焼けた獣骨（イノシシ・シカ）、貯蔵穴状の土坑からまとめて出土した安行2式の5個体の土器などは注目される。また、弥生時代後期の木棺墓からは甕や鉢形土器とともに23点のガラス玉で検出された。

《貝塚》縄文時代中期後葉から晩期前葉までの、土坑の覆土内貝層50地点・住居跡の覆土の一部や炉跡の覆土内貝層6地点・遺物包含層中1地点・柱穴状のピット内貝層211地点・その他3地点の計271地点が検出されたが、主体となる時期は後期前葉と後葉に大別される。貝層の主体はイボキサゴ・ウミニナ・アラムシロ・ツメタガイ・アカニシ・ハマグリ・アサリ・シオフキなどであり、イノシシ・シカなどの獣骨、サメ・エイ・マイワシ・ギバチ・ウナギ・ボラ・スズキ・キス・クロダイ・マアジ・サバ・ハゼ・コチ・フグ・カレイ・シタビラメなどの魚骨も貝層中から検出されているが、これらの組成は時期や地点によってかなり相違しており、当時の生業活動や周辺部の環境を考えるうえで貴重なデータとなることが予想される。また貝層中からは埋葬人骨2体、骨角貝製品も検出されている。

《遺物包含層》調査区のほぼ中央に位置する浅い谷状の地形の両側に、厚さ平均50cmほどで堆積していたが、土採り以前には調査区の全域にわたってさらに厚く堆積していたものと思われる。包含層中からは縄文時代中期から晩期までの多量の土器片とともに、土偶・土版・耳飾・有孔円盤などの土製品、石剣・石棒などの石製品が多数出土している。また調査区の西端の小区画からは堀之内1・2式期の土器捨て場とみられる地点が検出され、4×10mほどの範囲の中で少なくとも30個体以上の土器が出土した。

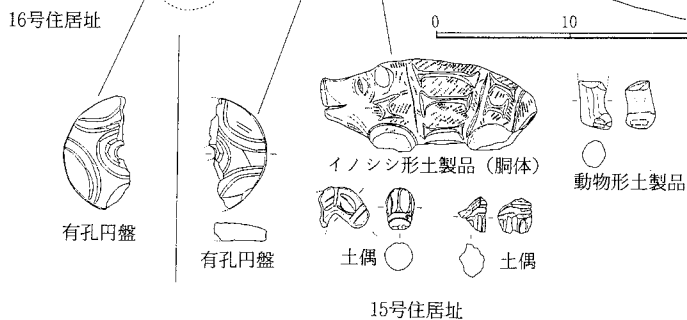
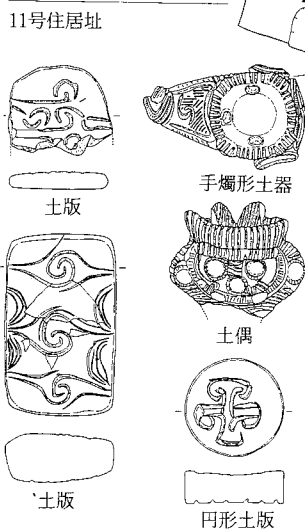
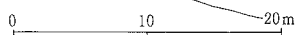
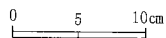
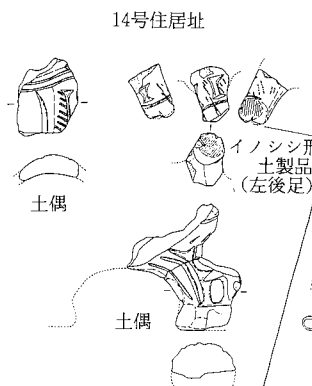
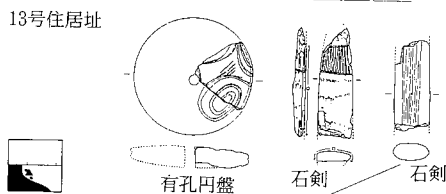
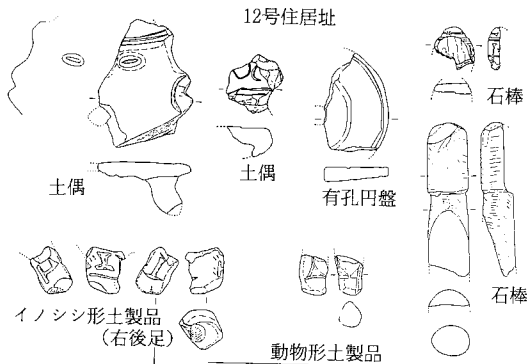
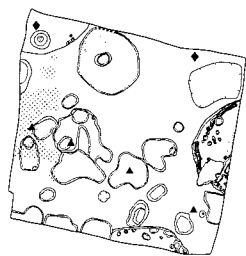
なお、平成7年3月に調査報告書が刊行されているので、詳細についてはこれによられたい。

（忍澤成視）

忍澤成視『市原市能満上小貝塚』－財団法人市原市文化財センター調査報告書第55集－1995.3



- ★イノシシ形（動物形）土製品
- ◆土偶
- 土版
- 有孔円盤
- ▲石剣・石棒
- △手燭形土器
- ◇異形土器
- 香炉形土器



西側調査区祭祀関係土製品・石製品出土状況

16. 勝間上座頭橋遺跡

事業名 土砂採取に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市勝間字上座頭橋1843地先 他

調査期間 平成4年9月16日～平成4年10月6日

調査面積 15,000㎡のうち 1,500㎡（確認調査）

調査概要 本遺跡は、村田川の支流神崎川の上流部左岸台地上に存在し、村田川河口からは、約10km遡った地点に位置する。付近の遺跡には、神崎川の小谷を挟んだ北側台地上に、いわゆる発生期の古墳として知られる小田部古墳、やや下流の左岸台地上には、弥生時代後期の方形周溝墓や古墳時代前期の住居跡などを検出した小田部新地遺跡、更に北側下流約1.5kmには全長28mの荻作1号墳、また、右岸台地上の北側約2.5kmには弥生時代後期から古墳時代後期の住居跡などが検出された祭り野遺跡、更に北西側約5.0～6.0kmの村田川本流左岸台地上には弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や墳墓を検出した大厩遺跡と菊間遺跡が存在する。

上座頭橋遺跡の立地する台地は、北東に突き出す形を呈しており、規模は、幅200m、長さ450mを測る。小谷からの比高は、最大22mである。台地の北側は緩やかな傾斜を示し、東側は既に土砂採取により削平されている。

今回の調査は、当台地の中央付近を確認調査し、トレンチは、幅約2mを40本主として南北方向に設定した。調査の結果、対象区域のほとんどは、0.8～1.5m削平され、また、その後一部は、川砂や産業廃棄物により盛土され、更に一部は土坑状に掘られていた。検出した遺構では、竪穴住居跡の柱穴と炉のセットと考えられる部分が1カ所認められた。位置は、調査対象区域の中央部でやや南寄りの地点である。ピットは6本、炉は1基で、ピットの内4本は、方形に組み合わされ、竪穴住居跡の柱穴と考えられ（各柱穴間隔は3.5m～2.7mである）、他の2本はいわゆる貯蔵穴と出入口用ピットとみられる。炉は、北側柱穴2本の間に所在している。これらの検出面は上部が何時の時代か削平されているため、ハードローム層上面である。各ピットの大きさは、表1のとおりである。炉は、焼土が充満し、大きさは、上端長径44cm、短径36cm、下端長径26cm、短径22cm、深さは13cmである。出土遺物は皆無であった。また、貯蔵穴と考えられるP5は、底部に小ピットを伴っており、特異な形態を呈する。

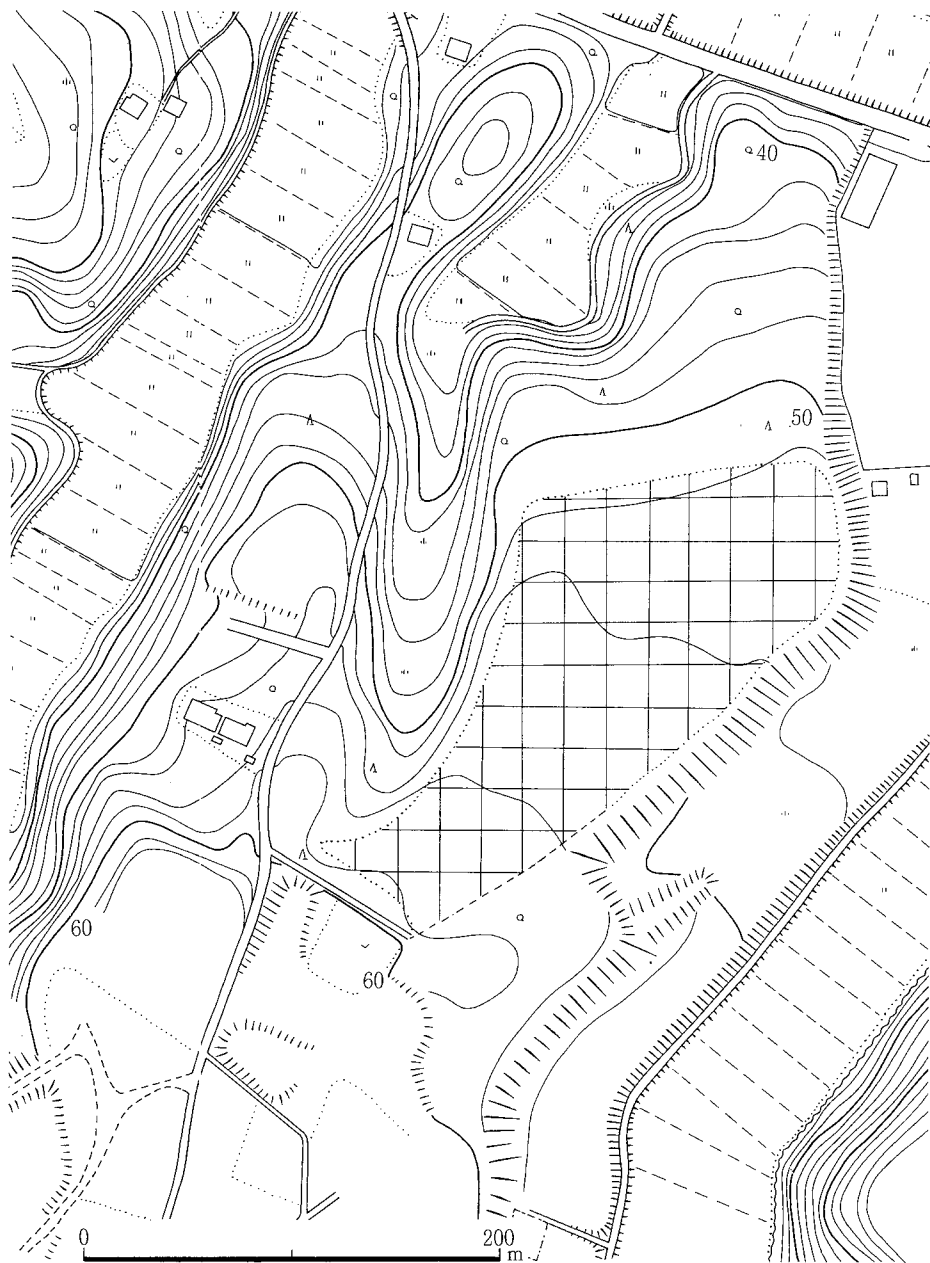
これらのピットや炉の位置関係及び周辺から採集された遺物などから古墳時代前期の五領式期の住居跡と考えられる。竪穴の平面形体は方形とみられるが、床面は、上部が削平され、踏み固められた面などは認められない。推定される床面積は、約24㎡と考えられる。

周辺から採集した遺物は16点で、1～10は土師器甕の破片、11高杯の胴部片、12・13は、鉢か高杯の坏部片、14・15は、甕の底部片とみられる。また、16は、須恵器の高杯片である。



周辺の主な遺跡 1/25,000

1は、土師器甕の口縁部片で、内外面に横及び斜め方向に刷毛目が施される。焼成は少し不良で、胎土は緻密、色調は、外面黒褐色、内面淡茶褐色である。2も甕の口縁部片で、口唇部にヘラ状工具による刻み目を施す。外面は縦方向のヘラナデ、内面は縦方向のヘラ削りの後、横方向のヘラナデ、口径は14cmと推定される。焼成は普通、胎土は緻密、色調は、外面暗褐色、内面淡褐色である。また、外面には煤が付着する。3も甕の口縁部片で、くの字状を呈する。外面には刷毛目を有する。口径は14cmと推定される。焼成はやや不良、胎土は緻密、色調は、

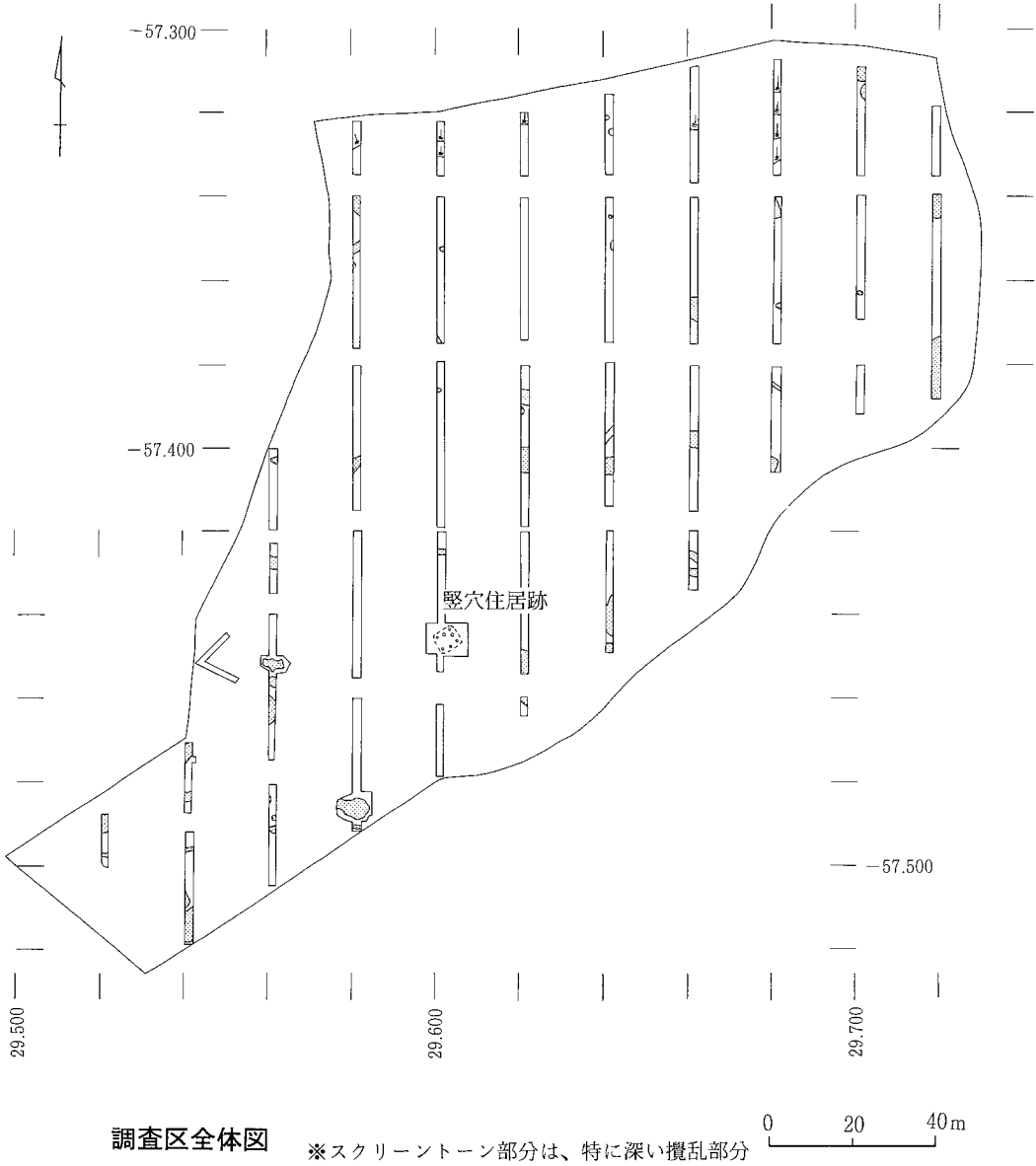


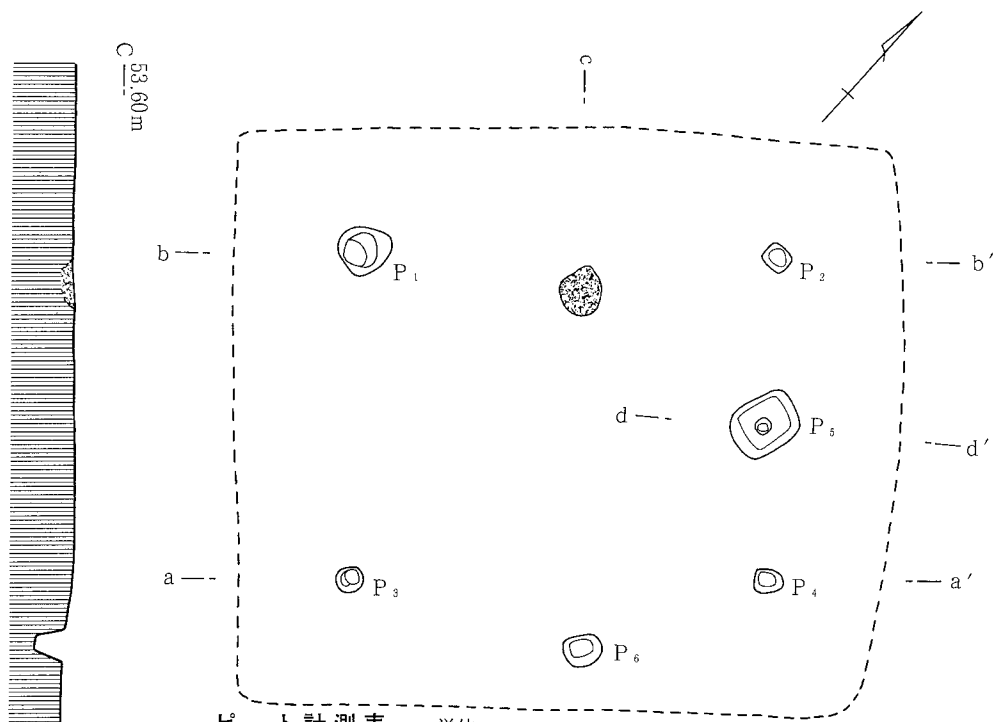
グリッド設定図

外面暗茶褐色、内面暗褐色である。4も甕の口縁部で、2と同様の形態を呈するが、やや口縁部が外反ぎみである。5・7～10は甕の胴部片と思われ、外面に刷毛目が施される（一部は内面もみられる）。6は、3と同様に甕の口縁部でくの字状を呈し、内外両面に刷毛目が認められる。11は、高杯の脚部片で、外面は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラナデ、坏部内面はヘラミガキが施される。12・13は、鉢の口縁部片と考えられる（高杯の坏部の可能性もある）。14・15は、甕の底部片で一部に刷毛目が残る。16は、須恵器蓋坏片で宝珠つまみをもつ。

今回の調査により、当遺跡は、主として古墳時代前期の集落が存在していたのではないかと推定している。台地全体は平坦で広く、多くの遺構の存在が想定できる。周辺には、小田部古墳等重要な同様の時期の遺跡が認められ、その関連が注目されるが、当遺跡が消滅したことが残念である。

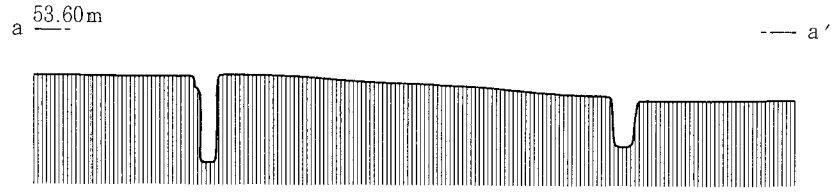
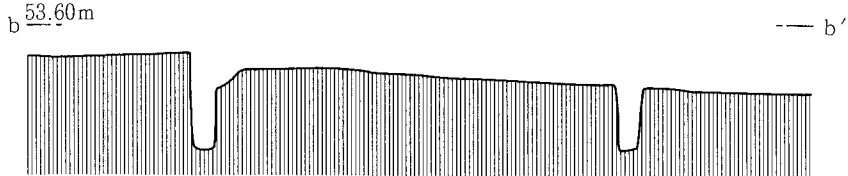
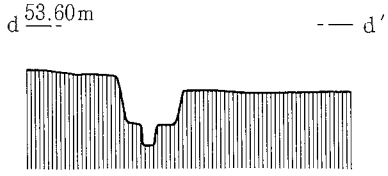
(田中清美)



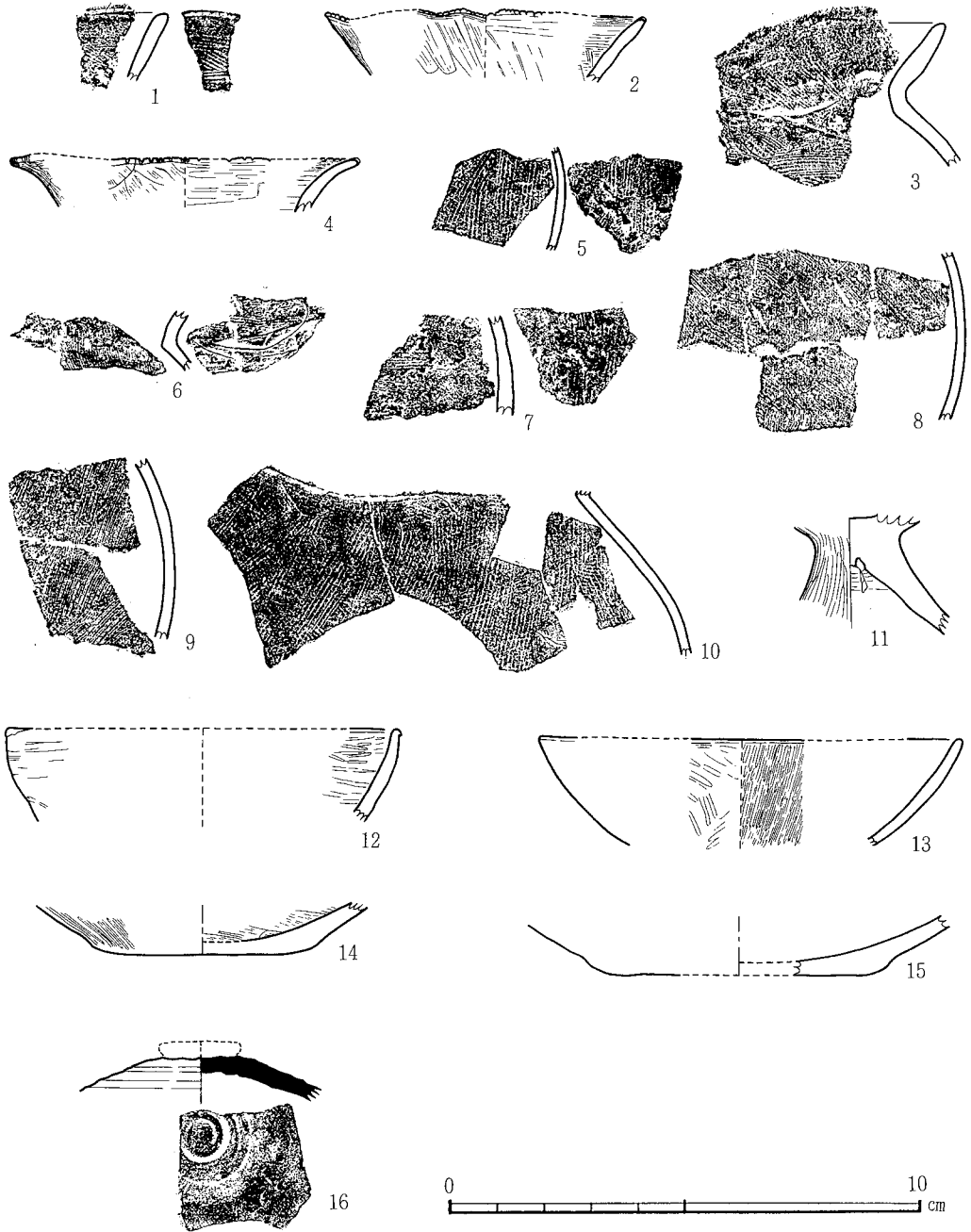


ピット計測表 単位 cm

名称	上端		下端		深さ
	長径	短径	長径	短径	
P ₁	46	43	24	18	83
P ₂	25	22	18	14	57
P ₃	25	24	14	12	74
P ₄	25	21	17	13	44
P ₅	58	46	40	35	40
底部P	14	12	9	7	18
P ₆	34	27	20	15	28



竪穴住居跡実測図



出土遺物実測図

調査前の状況



南西から北東を望む



北西側削平状況



北から南西を望む



トレンチ設定状況

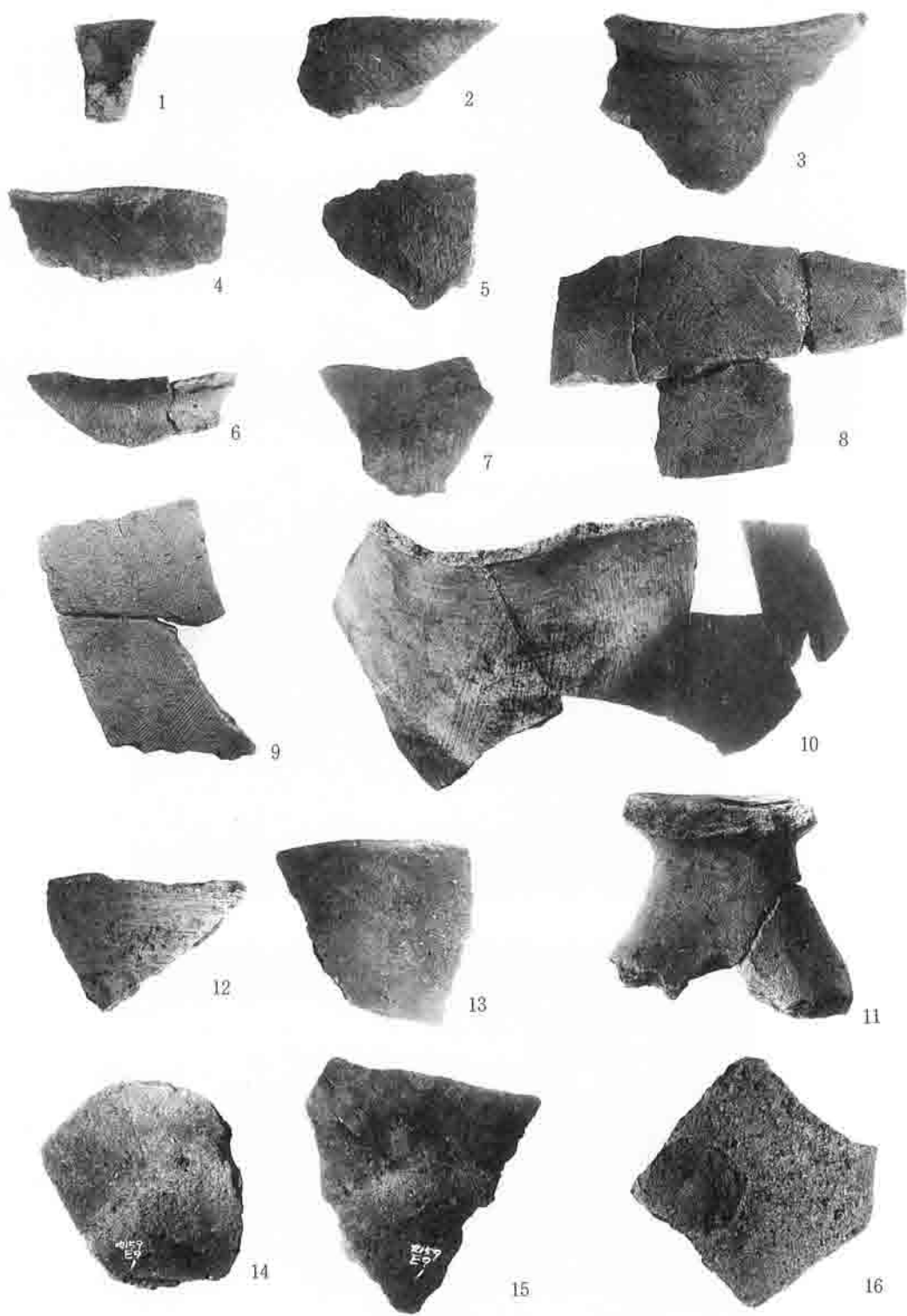




トレンチ設定状況



竪穴住居跡（東側より）



出土遺物

17. 村上白山遺跡

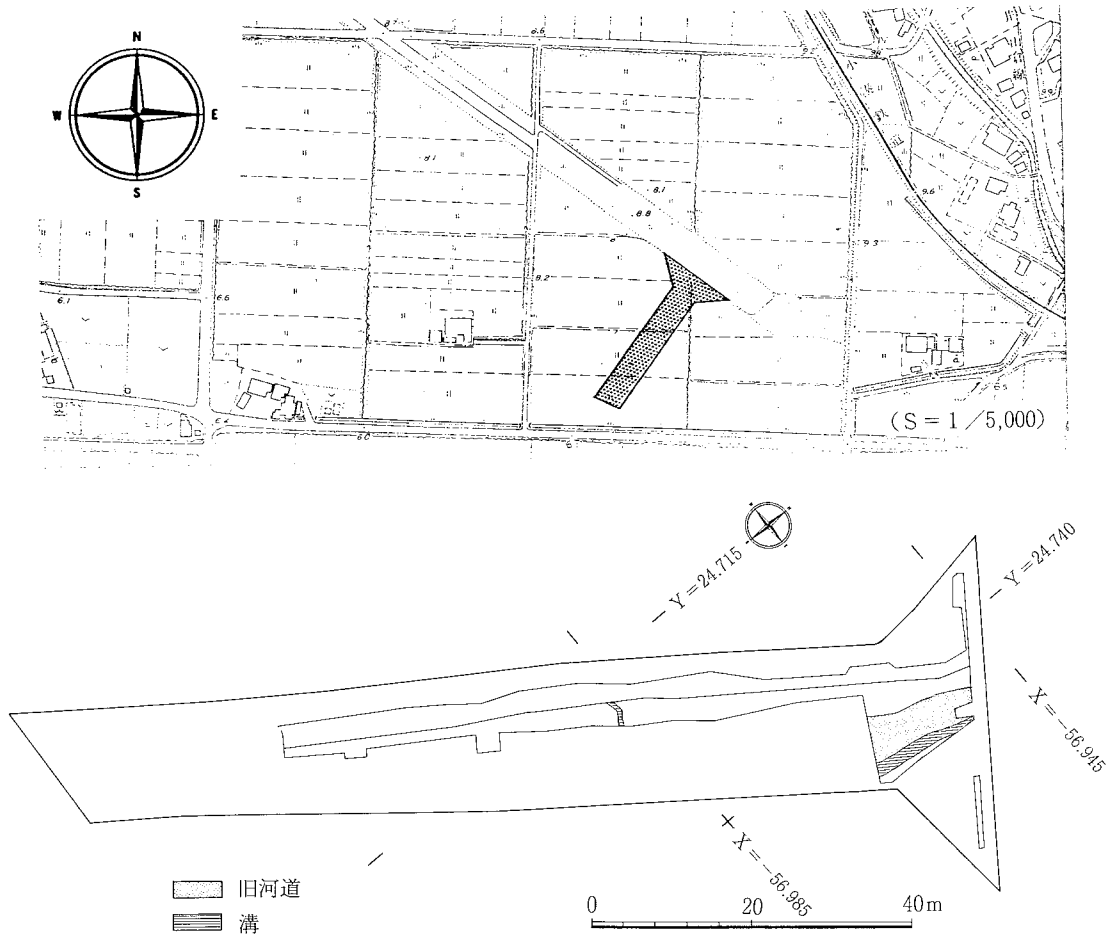
事業名 市道83号線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市村上字2768 他

調査期間 平成4年10月1日～平成4年11月5日

調査面積 2,000㎡のうち 200㎡（確認調査）、600㎡（本調査）

調査概要 白山遺跡は、東京湾に注ぐ養老川右岸下流域に存在し、標高7m前後の微高地に位置する。北西側には千葉県文化財センターが調査し、8～9世紀の掘立柱建物群等を検出した村上遺跡が存在する。また、当センターでも国府推定地調査として、村上遺跡群の調査を行い溝や井戸跡等を検出している。また、本遺跡に隣接する北東側には、村上川堀遺跡等の存在が知られている。上総国府推定地に関連して官衙的遺構の検出も期待されたが、調査の結果、奈良・平安時代に比定される旧河道と近世の溝1条が検出されたにとどまった。（小川浩一）



18. ^{みやばら どう やつ}宮原堂谷遺跡

事業名 市道 112号線建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市宮原字堂谷 841-1 他

調査期間 平成4年12月25日～平成5年2月25日

調査面積 1,100 m²のうち110 m² (確認調査)

調査概要 姉崎台地北辺の南北方向に開析された支谷に挟まれた舌状台地の先端部分について確認調査を実施した。当地はその南側に広がる台地上が「市原市埋蔵文化財分布地図」中で、縄文時代遺物包蔵地宮原堂谷遺跡として周知の遺跡であり、東側支谷を挟んで 100mの台地上に分目要害遺跡が、また、西側支谷を挟んで 120mの台地上には貝塚を伴う宮原布谷台貝塚が位置している。

確認調査範囲の中央部に南北に赤道が横切り、また、土採取が行われており、旧状を部分的に残すみの状態であった。調査の結果は、土師器破片が数点出土したのみであり、遺構等は確認されなかった。
(米田耕之助)

19. ^{みやばら ぬの やつ だい}宮原布谷台貝塚

事業名 市道 112号線建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市宮原字布谷台787 他

調査期間 平成4年12月25日～平成5年2月25日

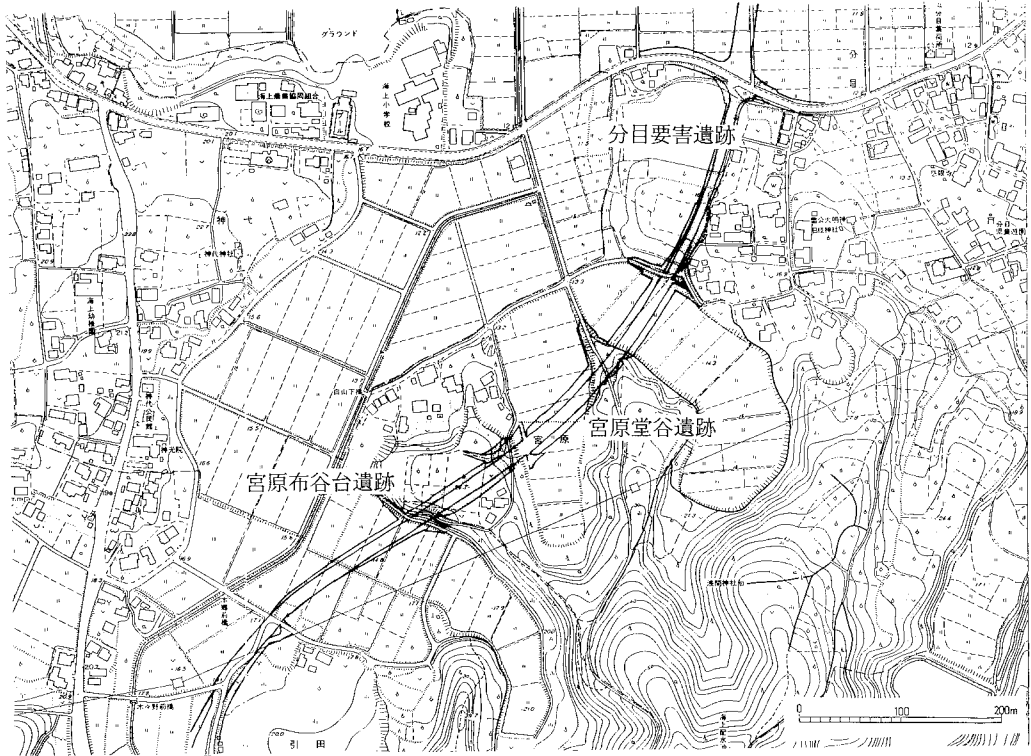
調査面積 3,600 m²のうち360 m² (確認調査)

調査概要 姉崎台地北辺部の引田川右岸の標高24m程の台地上に位置する遺跡で、前述した宮原堂谷遺跡と支谷を挟んで対峙している。

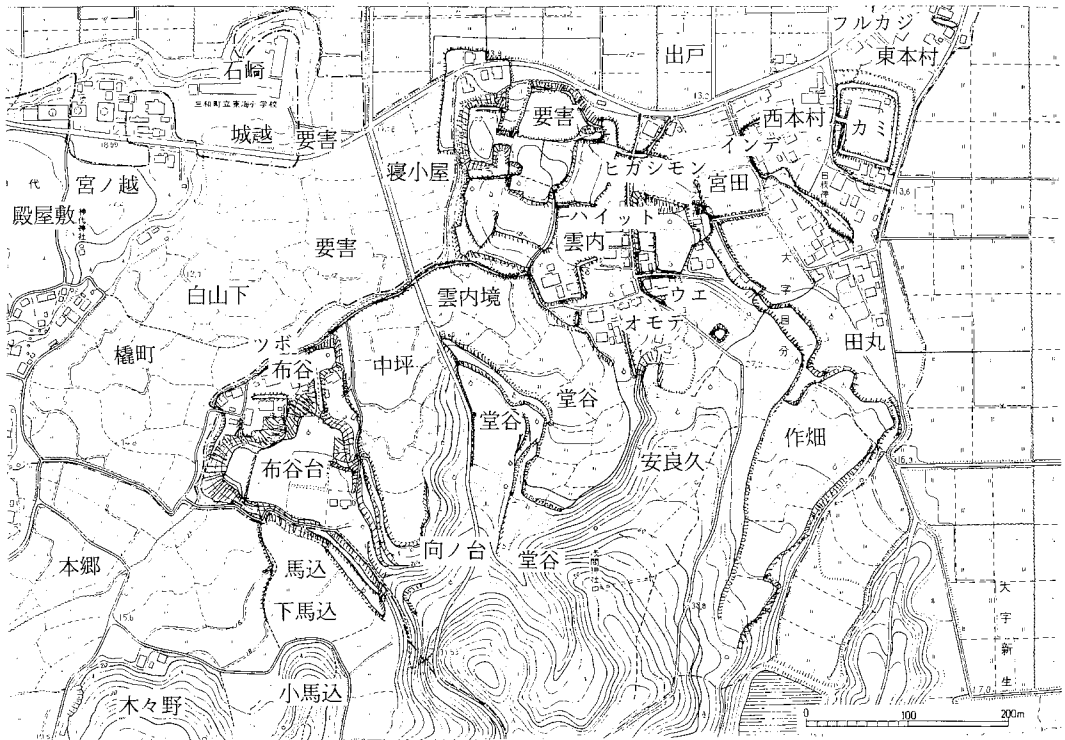
舌状台地の東端の崖面には縄文時代の貝層堆積断面を見ることができ、台地上の貝層分布状況と併せると直径 100m程の環状集落跡の存在が予想されていた。

今回の調査対象範囲は、貝塚の中央部を横切る形となり、トレンチ掘りの結果、縄文時代中期の住居跡及び貝層、古墳時代後期の住居跡多数が確認され、台地上全面に縄文時代と古墳時代の集落跡が複合していることが明らかとなった。また、貝層については厚さ 1 m以上の堆積を有する箇所が部分的に存在すること、遺跡東端の貝層が一部低地の水田下に潜って広がる状況などが確認された。

なお、当該地は中世には城郭として利用されていたところであり、調査範囲中から中世に位置づけられる溝数状を検出している。
(米田耕之助)



確認調査対象地区配置図



対象地域見取図及び小字名

20. 分目要害遺跡

事業名 市道 112号線建設に伴う埋蔵文化財調査

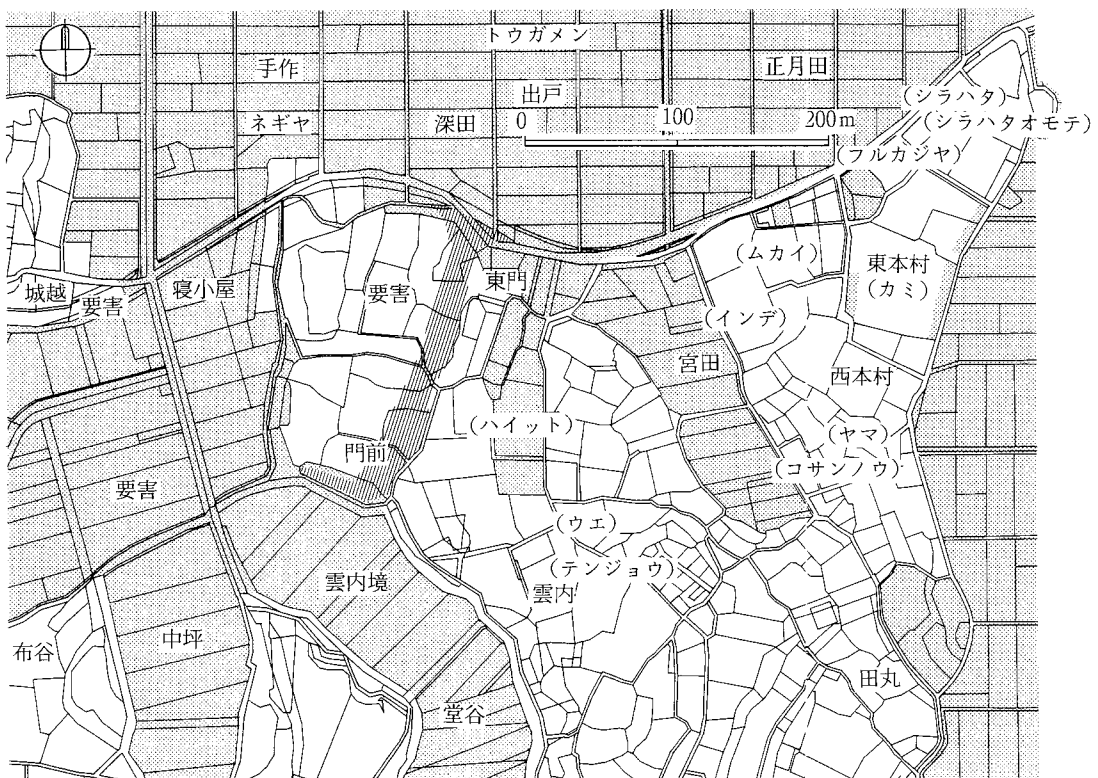
所在地 市原市分目字分目要害 296 他

調査期間 平成4年12月25日～平成5年2月25日

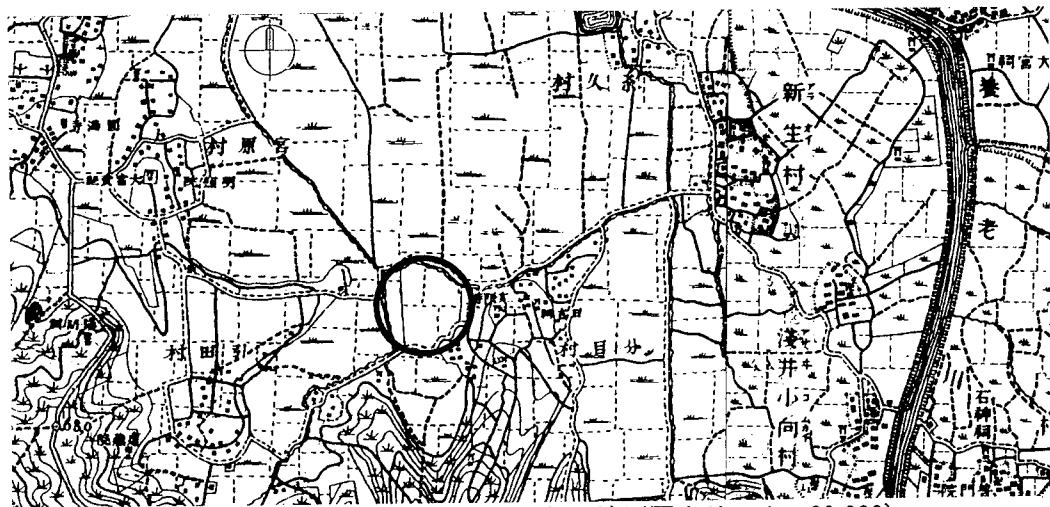
調査面積 3,900㎡のうち 390㎡ (確認調査)

調査概要 遺跡は中世城郭跡で、養老川中流域の沖積平野に南面した台地麓に位置する。殿屋敷・宮の越・白山下・雲内・雲内境・出戸・深田・馬込・要害・寝小屋・東門・門前などの地名が残り、他の中世城館跡推定地も近隣に点在する。城郭の主要部分は、戦時中及び昭和40年代に大規模な削平を受け、現在は土塁や曲輪の一部が地表面において確認されるに止まる。

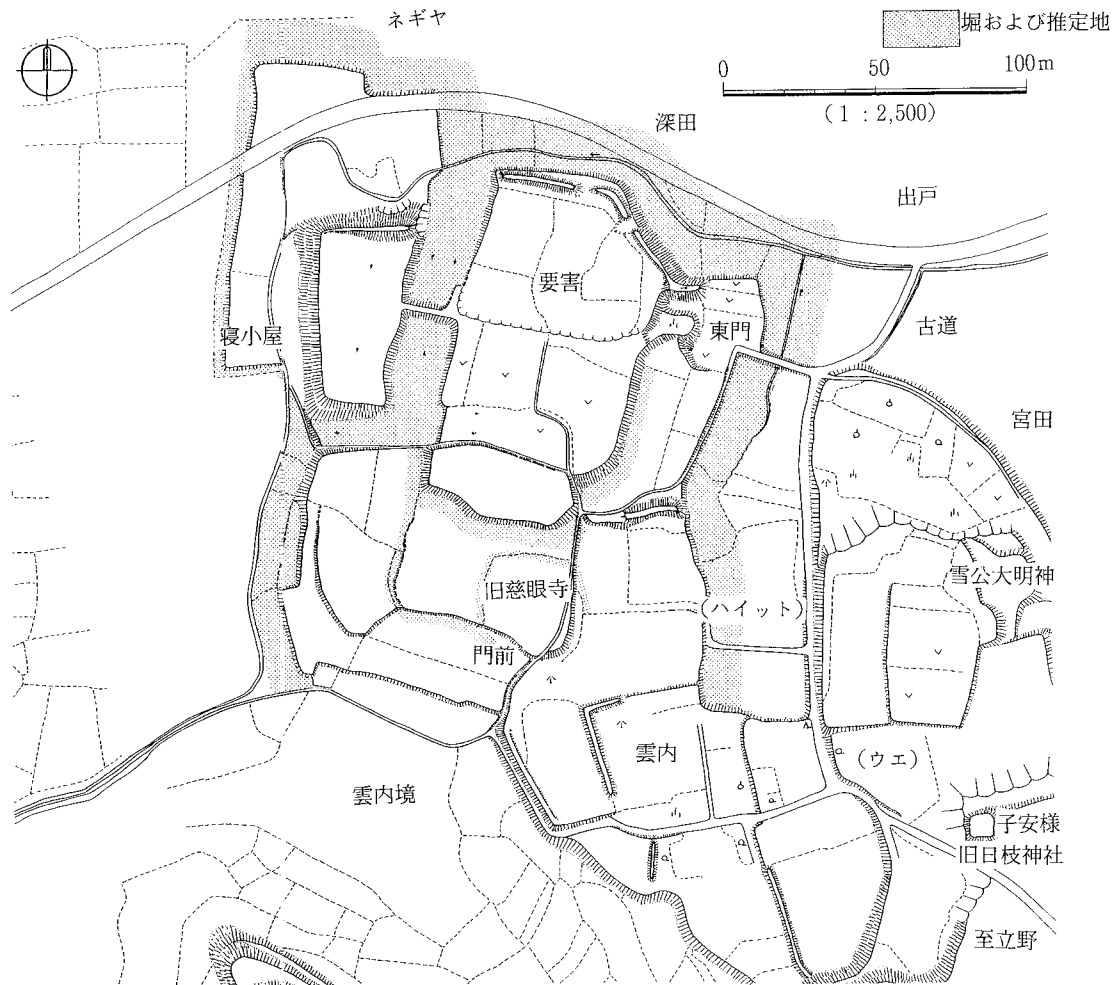
調査では戦国期の堀や溝、土壇群が確認された。切り土整地跡も見られ、曲輪としての使用が窺われる。調査区南側全域では鬼高期の土器群が出土し、中世段階における整地以前に、古墳時代後期の集落跡が存在した可能性を指摘しうる。更に調査区南端で確認された古墳時代の木質泥炭層中より、割木弓などの木製品が出土した。なお、掲載図面作成に関し、小高春雄氏、近藤敏氏より多くのご教示を受けた。(櫻井敦史)



分目要害遺跡周辺地籍図 (カッコ内は屋号。アミ部は水田、沼、湿地)



分目要害遺跡位置図（明治19年迅速測図より、1：20,000）



分目要害遺跡縄張り図

21. 山木^{やま き}深堀^{ふか ぼり}遺跡

事業名 県費不特定遺跡補助事業に伴う埋蔵文化財調査

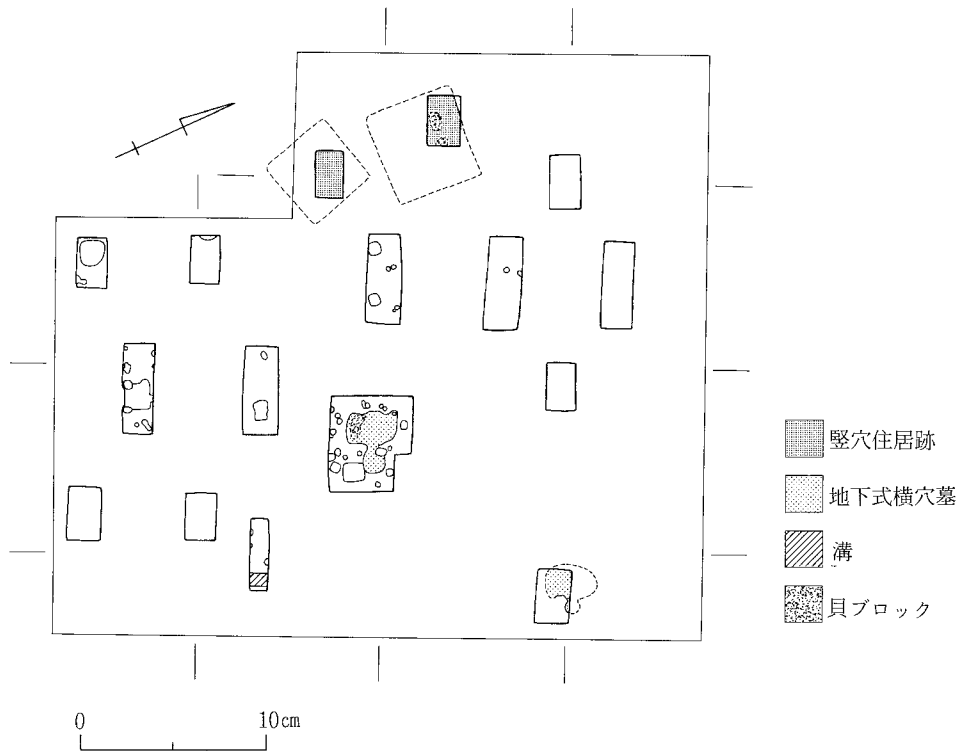
所在地 市原市山木字深堀 658-1 地先 他

調査期間 平成5年3月4日～平成5年3月18日

調査面積 1,152㎡のうち115㎡（確認調査）

調査概要 当遺跡は、東京湾を西に望む標高26m前後の台地上やや奥部に立地する。調査は、2×3または2×5mのトレンチを設定した。その結果、調査対象範囲内の大部分は、何んらかの形でハードローム層に至るまで削平を受けていたが、平安時代に比定される竪穴住居跡2軒と地下式横穴墓2基などを確認した。出土遺物は、坏形土器や貝ブロックを検出し、また、地下式横穴墓の1基からは、馬骨が出土している。当遺跡の西側には、若宮遺跡が存在し、以前の調査で、弥生時代から平安時代にいたる竪穴住居跡約97軒、古墳2基などを検出しており、また、当遺跡は、山木城跡の範囲内と考えられるため、これらの遺跡との関連性が注目される。

(田中清美)



調査地区全体図

IV 平成4年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究	鹿児島大学法文学部考古学研究室	4.4.1
久留里城址資料館年報12 平成2年度	君津市立久留里城址資料館	〃
三重県埋蔵文化財調査報告95	三重県埋蔵文化財センター	4.4.4
各務原市資料調査報告書第15号	各務原市歴史民俗資料館	〃
松山市文化財調査報告書25	松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
佐倉ゆかりの刀剣展	佐倉市教育委員会	〃
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第89・91～94集	広島県埋蔵文化財調査センター	〃
賀茂学園都市開発整備事業地内(西高屋地区)遺跡群VI	同上	〃
年報VI・VII	同上	〃
研究輯録I	同上	〃
坂戸市史原始史料編・原始史料編図版	坂戸市教育委員会	4.4.6
坂戸市史中世史料編I・II	同上	〃
坂戸市史近世史料編I・II	同上	〃
坂戸市史近代史料編	同上	〃
坂戸市史現代史料編	同上	〃
坂戸市史民俗史料編I・II	同上	〃
坂戸市史通史編II	同上	〃
坂戸風土記 坂戸市史調査資料第2～5・8～11・13～15号	同上	〃
静川37遺跡	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
柏原5・27遺跡発掘調査(第1次)概要報告書	同上	〃
浦和市立郷土博物館研究調査報告書第19集	浦和市立郷土博物館	〃
平成4年度特別展 古代金工品にみる技術と美 古墳時代の造形	千葉県立上総博物館	4.4.7
上総市原第八号	市原市文化財研究会	4.4.9
研究連絡誌第34号	千葉県文化財センター	4.4.13
平成3年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
第26回企画展 伝統工芸の世界 結城紬	小山市立博物館	〃
京都府埋蔵文化財情報第43号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
第6回国民文化祭ちば'91 公式記録	第6回国民文化祭千葉県実行委員会	〃
浜松市博物館館報IV	浜松市博物館	〃
図説浜松の歴史	同上	〃
古代第93号	早稲田大学考古学会	〃
鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告第7集	鎌ヶ谷市教育委員会	〃
千歳市文化財調査報告書XVII	千歳市教育委員会	〃
平成3年度東金市内遺跡群発掘調査報告書	東金市教育委員会	〃
淡神文化財協会ニュース第21号	淡神文化財協会	〃
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VII 平成3年度	鹿児島大学	〃
成増との山遺跡発掘調査報告書II	板橋区成増との山遺跡調査会	〃
及川遺跡群	国道412号線遺跡発掘調査団	〃
小野焼山遺跡発掘調査概報	下総町教育委員会	4.4.14
高岡塙遺跡	同上	〃
下総町内遺跡発掘調査報告1991年度	同上	〃
神明山遺跡発掘事前総合調査報告書	富津市教育委員会	4.4.16
加藤遺跡	同上	〃
西原古墳	同上	〃
平成3年度富津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
松山市文化財調査報告書第26集	榑松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	4.4.16
太宰府市史考古資料編	太宰府市	〃
一宮市文化財調査報告11	一宮市博物館	4.4.20
いわき市教育文化事業団年報2 平成2年度	榑いわき市教育文化事業団	〃
いわき市教育文化事業団研究紀要第3号	同上	〃
立命館大学文学部学芸員課程研究報告第3冊	立命館大学文学部	〃
平成3年度流山市市内遺跡発掘調査報告書	流山市教育委員会	〃
平成3年度野田市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	〃
考古学と生活文化 同志社大学考古学シリーズV	同志社大学	〃
平成3年度市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	〃
平成3年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	〃
市内遺跡発掘調査報告平成2・3年度	八千代市教育委員会	4.4.21
平成3年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
古墳時代の研究第7巻	雄山閣出版	〃
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成3年度	榑香川県埋蔵文化財調査センター	4.4.22
南ノ内塚	四街道市教育委員会	4.4.23
四街道市内遺跡群発掘調査報告書1992	同上	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第33集	榑向日市埋蔵文化財センター	〃
武蔵大学人文学会雑誌第23巻第2・3、4号	武蔵大学人文学会	4.4.27
神奈川県埋蔵文化財調査報告34	神奈川県教育庁	〃
いずみ野遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
苦久保遺跡発掘調査報告書	同上	〃
今田遺跡発掘調査報告書	同上	〃
兵庫県生産遺跡調査報告第1冊	兵庫県教育委員会	〃
小宮町遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	〃
史跡八王子城跡環境整備事業報告書	同上	〃
南多摩窯跡群	同上	〃
縄文誕生 平成4年度展示解説	榑東京都埋蔵文化財センター	〃
山武考古学研究所年報No9 平成2年度	山武考古学研究所	4.4.30
埼玉県立博物館展示総合案内	埼玉県立博物館	4.5.1
太宰府天満宮境内地発掘調査報告書第1集	山村信榮	〃
平成3年度沼南町内遺跡発掘調査報告	沼南町教育委員会	〃
埼玉県立埋蔵文化財センター年報1 平成2年度	埼玉県立埋蔵文化財センター	4.5.4
URBAN KUBOTA6～10・12～19・21	近藤 敏	4.5.6
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第10号(上)(下)	東京大学文学部考古学研究室	〃
日本とシベリアの先史文化交流に関する日ソ共同調査	同上	〃
大田区立郷土博物館紀要第2号	大田区立郷土博物館	〃
写された大田区 懐かしい・まちとくらし	同上	〃
津市埋蔵文化財調査報告20・22	津市教育委員会	〃
調布市埋蔵文化財調査報告26	調布市郷土博物館	〃
埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書平成3年度	千葉市教育委員会	4.5.7
佐原市内遺跡群発掘調査概報VI	佐原市教育委員会	〃
神奈川県下における集落変遷の分析 かながわの考古学第2集	神奈川県立埋蔵文化財センター	4.5.8
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23・24	同上	〃
弥生の神々 大阪府立弥生文化博物館図録4	大阪府立弥生文化博物館	4.5.11
根岸遺跡	いわき市教育委員会	〃
埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ・Ⅳ	宮崎県総合博物館	〃

書名	寄贈者	受入日
平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	4.5.11
小室上台遺跡	同上	〃
印内台遺跡第4次調査報告書	同上	〃
平成3年度三重県埋蔵文化財センター年報3	三重県埋蔵文化財センター	〃
三重県埋蔵文化財調査報告87-4・101-1・101-4	同上	〃
百間川沢田(市道)遺跡発掘調査報告	岡山市教育委員会	〃
矢田の宝篋印塔所在地発掘調査報告	同上	〃
見蔵岡遺跡	淡神文化財協会	〃
のじぎく文化財だより創刊号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	〃
苫小牧東部工業地帯の遺跡群IV	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
國學院大學文学部考古学実習報告第20・21集	國學院大學文学部考古学研究室	〃
高橋遺跡発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
横江遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	〃
馬淵遺跡発掘調査報告書	同上	〃
樋之口遺跡	同上	〃
錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要V	同上	〃
壺仙寺遺跡発掘調査報告書	同上	〃
昭和63年度滋賀県埋蔵文化財調査年報	同上	〃
石田三宅遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	〃
常衛遺跡発掘調査報告書	同上	〃
石山貝塚発掘調査報告書	同上	〃
木瓜原遺跡試掘調査報告書	同上	〃
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XⅦ-1・XⅧ-3・8・9	同上	〃
國學院大學考古学資料館紀要第8輯	國學院大學考古学資料館	4.5.14
特別展 京都府のはにわ	高橋美久二	〃
城之腰遺跡	御代田町教育委員会	〃
尖底土器と狩猟採集民のムラ	同上	〃
木更津市文化財調査集報Ⅰ	木更津市教育委員会	4.5.15
四日市市埋蔵文化財調査報告17	四日市市教育委員会	〃
四日市市文化財保護年報2 平成2年度	同上	〃
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書	同上	〃
木野子大山遺跡発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
平成3年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市教育委員会	〃
市民のための袖ヶ浦の歴史	同上	〃
綾瀬市埋蔵文化財調査報告2	綾瀬市教育委員会	〃
日本窯業史研究所報告第38~41冊	日本窯業史研究所	4.5.16
昭和61年度・平成2年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	〃
大阪市文化財年報昭和61・62・平成元年度	同上	〃
白井町二部山遺跡確認調査報告書	白井町教育委員会	4.5.20
いわき市埋蔵文化財調査報告第31冊	いわき市教育委員会	〃
松戸市文化財調査報告第18集	松戸市教育委員会	〃
貝塚博物館紀要第19号	千葉県立加曽利貝塚博物館	〃
10年のあゆみ1981~1991	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
平成2年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告	市川市教育委員会	〃
平成2・3年度市川市内遺跡群発掘調査報告	同上	〃
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成3年度	奈良市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
平城京東市跡推定地の調査X	奈良市教育委員会	4.5.20
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1991	同上	〃
千葉県印旛郡栄町神社棟札集成	栄町教育委員会	〃
平成3年度山武町内遺跡群発掘調査報告書	山武町教育委員会	4.5.22
宇治市文化財調査報告第3冊	宇治市教育委員会	4.5.25
枚方市文化財年報11 1989年度	㈱枚方市文化財研究調査会	〃
南山8号・9-A～D号窯発掘調査報告	愛知県陶磁資料館	〃
平成2年度瀬戸市埋蔵文化財年報	㈱瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
海上遺跡	同上	〃
上半田川遺跡	同上	〃
東本町A窯跡	同上	〃
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1990年度	㈱東大阪市文化財協会	〃
西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告	同上	〃
博古研究第3号	茨城大学	4.5.26
城郭研究室年報Vol.1	姫路市立城郭研究室	〃
大分市歴史資料館年報1991	大分市歴史資料館	〃
第10回特別展 九州の土人形その歴史と世界	同上	〃
図録 浮世絵の中の団十郎	成田山霊光館	〃
大阪市立博物館報No.31	大阪市立博物館	4.5.27
平成3年度富里町埋蔵文化財発掘調査報告書	富里町教育委員会	〃
平成2年度山武町内遺跡群発掘調査報告書	山武町教育委員会	〃
平成3年度山武町内遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
長谷小路南遺跡	鎌倉考古学研究所	〃
下馬周辺遺跡	同上	〃
平成2年度鎌倉市内急傾斜他崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書	同上	〃
平成2年度鎌倉市内急傾斜他崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書	同上	〃
三原田遺跡第3巻 中期後半期～後期初頭期篇	群馬県企業局	4.5.28
名古屋大学文学部研究論集113 考古学抜刷第7集	名古屋大学文学部考古学研究室	4.5.29
所沢市文化財調査報告書第18-2・30～32集	所沢市教育委員会	4.5.30
小田原市文化財調査報告書第36～39集	小田原市教育委員会	〃
中村宮ノ谷遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
県営片倉町団地内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
上品濃遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
横須賀市文化財調査報告書第24～26集	横須賀市教育委員会	〃
中馬掘遺跡	同上	〃
一宮市博物館年報2	一宮市博物館	4.6.1
小池遺跡	松本市教育委員会	〃
松本市文化財調査報告No.93～97	同上	〃
史迹と美術第62輯ノ4	吉田 実	4.6.2
田村西部工業団地関連遺跡調査報告書 I	逸見克己	〃
大針貝塚・浮谷貝塚発掘調査報告	忍澤成視	4.6.4
前方後円墳を考える	帝塚山考古学研究所	4.6.5
考古学における計量分析	同上	〃
古代の寺を考える 年代・氏族・交流	同上	〃
第5回考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	同上	〃
考古学における熱ルミネセンス年代測定	同上	〃
備前周匝茶臼山城址発掘調査報告書	吉井町教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
小枝2号墳	吉井町教育委員会	4.6.5
東邦考古16	東邦考古学研究会	4.6.6
埴輪の誕生	大田区立郷土博物館	〃
復刻版博物館ノートNo.1～No.50	同上	〃
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第161～162・166～170・172～176・178集	埋蔵文化財センター	4.6.8
千葉県白井町の民家調査－Ⅲ1991年度	白井町教育委員会	〃
筑波大学 先史学・考古学研究第3号	筑波大学	〃
収蔵資料目録Ⅲ 自然・考古資料	千葉県立大根博物館	〃
特別展 川と古文化展示図録	同上	〃
シンポジウム中世都市の成立と展開 鎌倉の発掘事例を中心として	田所 真	〃
のじぎく文化財だより第2号	財のじぎく文化財保護研究財団	4.6.11
大庭寺遺跡Ⅰ調査の概要	財大阪文化財センター	〃
大津市埋蔵文化財調査報告書20	大津市教育委員会	〃
長岡京市文化財調査報告書第29・30冊	長岡京市教育委員会	〃
長岡京市埋蔵文化財調査報告書第6集	財長岡京市埋蔵文化財センター	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報平成2年度	同上	〃
九日市 写真でみる船橋2	船橋市郷土資料館	4.6.15
近年の発掘調査による考古学の成果2 第36回郷土史講座講義録	同上	〃
写真でみる旧九日市・海神地区の文化財 展示資料観覧の手引	同上	〃
日本の玩具 資料観覧の手びき	同上	〃
三市合同巡回企画展示 資料観覧の手びき	同上	〃
大和市文化財調査報告書第48～50集	大和市教育委員会	〃
埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ・Ⅷ	三重県埋蔵文化財センター	〃
三重県埋蔵文化財調査報告96	同上	〃
古代学研究所研究紀要第2輯	財古代学協会 古代学研究所	〃
明王院 その歴史と文化	広島県立歴史博物館	〃
広島県の重要文化財1	同上	〃
各務原市文化財調査報告書第8～10号	各務原市埋蔵文化財調査センター	〃
財群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第124集	財群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
桜井谷窯跡群2-23号窯跡	大阪大学文学部考古学研究室	4.6.17
雪野山古墳Ⅱ 第2次・第3次発掘調査概報	同上	〃
長法寺南原古墳の研究	同上	〃
長野県埋蔵文化財センター年報 1991	財長野県埋蔵文化財センター	〃
沼津市博物館紀要16	沼津市歴史民俗資料館	〃
沼津市歴史民俗資料館資料集10	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第37・39・40集	国立歴史民俗博物館	〃
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報6 平成2年度	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	4.6.18
松山市文化財調査報告書第27集	財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
國學院大學文学部考古学実習報告第8・14集	田所 真	4.6.20
國學院大學考古学資料館紀要第3輯	同上	〃
京都府遺跡調査報告書第15・16冊	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
京都府遺跡調査概報第47・48冊	同上	〃
日本考古学研究所集報XⅣ	日本考古学研究所	〃
千葉県立中央博物館研究報告人文科学第2巻第1号	千葉県立中央博物館	〃
伊達町史第3巻	伊達町教育委員会	〃
鳥取県教育文化財団調査報告書27～29	鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター	〃
財長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書11	財長野県埋蔵文化財センター	〃

書名	寄贈者	受入日
研究紀要9	(勸)群馬県埋蔵文化財調査事業団	4.6.23
(勸)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第133集	同上	"
北谷城2 研究室活動報告27	熊本大学文学部考古学研究室	4.6.24
栄町埋蔵文化財分布地図	栄町教育委員会	4.6.25
古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告	新潟大学人文学部考古学研究室	4.6.26
会津若松市文化財調査報告第22号	堂ヶ作山古墳調査団	"
黒笹第11号竪穴発掘調査報告書	三好町立歴史民俗資料館	4.6.29
泉南市文化財調査報告書第23集	泉南市教育委員会	"
永福寺跡	鎌倉市教育委員会	"
鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8	同上	"
(勸)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書12・13	(勸)長野県埋蔵文化財センター	4.6.30
千葉県文化財センター研究紀要13	(勸)千葉県文化財センター	4.7.2
研究連絡誌第33・34号	同上	"
平安京跡発掘調査概報	京都市埋蔵文化財調査センター	"
焼場谷炭窯跡発掘調査概報	同上	"
京都市内遺跡試掘調査概報	同上	"
京都市内遺跡立会調査概報	同上	"
研究紀要第14号	埼玉県立歴史資料館	4.7.4
宮崎-14遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	4.7.6
長美代遺跡発掘調査報告書	同上	"
春蔵遺跡発掘調査報告書	同上	"
宮平遺跡平成三年度発掘調査報告書	同上	"
日立市文化財調査報告第28・30集	同上	"
高田城址発掘調査報告書	同上	"
大國塚2号墳	同上	"
前山Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同上	"
荒子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書	同上	"
小杉町小杉流通業務団地内No1遺跡発掘調査報告	同上	"
平安京跡発掘調査概報平成3年度	(勸)京都市埋蔵文化財研究所	4.7.9
焼場谷炭窯跡発掘調査概報平成3年度	同上	"
京都市内遺跡試掘調査概報平成3年度	同上	"
京都市内遺跡立会調査概報平成3年度	同上	"
日置荘遺跡 その2-3、その6-2調査の概要	(勸)大阪文化財センター	"
大阪府下埋蔵文化財研究会(第26回)資料	同上	"
鳩山窯跡群発掘調査報告書第4冊	鳩山窯跡群遺跡調査会	"
名古屋市博物館研究紀要第15巻	名古屋市博物館	4.7.13
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第3集	帝京大学山梨文化財研究所	"
国鉄浜松工場内遺跡発掘調査報告書	(勸)浜松市文化協会	4.7.17
梶子遺跡Ⅷ	同上	"
(勸)香取郡市文化財センター調査報告書第4~7集	(勸)香取郡市文化財センター	4.7.18
第27回企画展 秀郷流藤原氏の系譜	小山市立博物館	4.7.20
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成3年度	(勸)香川県埋蔵文化財調査センター	"
空港跡地遺跡発掘調査概報平成3年度	同上	"
袋井市井戸ヶ谷第1号墳の調査	袋井市教育委員会	"
袋井市長者平遺跡 昭和55年度緊急発掘調査報告書	同上	"
大門Ⅰ遺跡第2・5次発掘調査報告書	同上	"
坂尻道下遺跡	同上	"

書名	寄贈者	受入日
堀越ジョウヤマ遺跡発掘調査報告書	袋井市教育委員会	4.7.20
袋井市鶴田Ⅱ遺跡	同上	"
袋井市三沢古墳群	同上	"
久野城跡	同上	"
㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第126・127・131・135集	㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
宇刈の横穴	袋井市教育委員会	4.7.22
愛野向山A-2・3・4号墳昭和61年度緊急発掘調査概報	同上	"
長者平遺跡	同上	"
鶴松遺跡Ⅱ	同上	"
袋井市原川城跡・坂尻遺跡	同上	"
権現山遺跡	同上	"
原川城的場・坂尻遺跡	同上	"
坂尻遺跡 シノムラ化学工業株式会社事務所の増築工事に伴う発掘調査概報	同上	"
坂尻遺跡 平成2年度メロンハウス建設に伴う緊急発掘調査概報	同上	"
奈良国立文化財研究所史料第33～35冊	奈良国立文化財研究所	"
平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書5	平塚市教育委員会	"
平塚市埋蔵文化財調査報告書第9集	同上	"
平塚市埋蔵文化財シリーズ20～22	同上	"
千葉県山武郡蓮沼村遺跡調査報告書 塩釜地遺跡・上野遺跡	小高春雄	4.7.23
長生の城	同上	"
平成3年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会1992	㈱滋賀県文化財保護協会	4.7.27
紀要第5号	同上	"
京都府埋蔵文化財情報第44号	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
大坂城跡の発掘調査2	㈱大阪文化財センター	"
北茨城市大塚窯跡出土の近世陶器 いわき地方史研究29抜刷	瓦次堅	"
茨城県の土偶 国立歴史民俗博物館研究報告第37集抜刷	同上	"
茨城県立歴史館報第18・19号	同上	"
大宮市立博物館研究紀要第4号	大宮市立博物館	"
穴田南古窯跡群	瀬戸市教育委員会	"
考古資料図録	横須賀市自然人文博物館	"
郡山東部12	郡山市教育委員会	"
蒲倉古墳群 分布調査・試掘調査報告	同上	"
片平城跡Ⅰ	同上	"
前原町文化財調査報告書第38～43集	前原町教育委員会	"
萩浦の文化財	同上	"
㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第130集	㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
伝承を考えるⅡ・Ⅲ	平野 馨	"
のじぎく文化財だより第3号	㈱のじぎく文化財保護研究財団	4.7.29
藤崎塚発掘調査報告書	習志野市教育委員会	"
奈良大学平城京発掘調査報告書第1集	水野正好	"
兵庫県三田市文化財調査報告第8冊	三田市教育委員会	4.7.30
久留里城址資料館年報13 平成3年度	君津市立久留里城址資料館	"
思川西岸の低地に築かれた古墳 シリーズ郷土小山の古墳を巡る1	小山市立博物館	4.8.3
小山市立博物館報第9号 平成3年度版	同上	"
埋蔵文化財年報3 平成3年度	㈱富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	"
東海北陸自動車道関連発掘調査概報3	同上	"
明治大学考古学博物館館報No.7	明治大学考古学博物館	"

書名	寄贈者	受入日
岩手県文化財調査報告第91集	岩手県教育委員会	4.8.3
長岡京特別講演会資料集	(財)向日市埋蔵文化財センター	"
向日市埋蔵文化財調査報告書第34集	同上	"
(財)勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第6・7集	(財)勝田市文化・スポーツ振興公社	"
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.3 1991年度	(財)徳島県埋蔵文化財センター	4.8.12
港郷土資料館館報10 平成3年度版	港区立港郷土資料館	"
港区文化財調査集録第1集	同上	"
大津市埋蔵文化財調査報告書17	大津市教育委員会	"
瀬戸内考古学研究所調査報告第1輯	瀬戸内考古学研究所	"
四日市市文化財保護年報1・2	四日市市教育委員会	"
東北横断自動車道遺跡調査報告12	(財)福島県文化センター	"
遺跡探査No.1・2	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	4.8.17
松山市立子規記念博物館年報1~3	高浦貞子	"
松山市立子規記念博物館総合案内	同上	"
第5回 子規を考える一日作品集	同上	"
第9回特別企画展図録 子規をめぐる画人たち 浅井忠・中村不折	同上	"
古照資料館収蔵品目録	同上	"
松山市文化財調査報告書15	同上	"
よみがえる伊予の古代展	同上	"
市原地方史研究第17号	市原市教育委員会	"
館報第12号	埼玉県立歴史資料館	4.8.19
菅谷館跡 資料館ガイドブック1	同上	"
南関東テフラから見た天変地異(複写) SYMPOSIUM 地質学と地震	上杉陽	"
特別展解説 下駄	沼津市歴史民俗資料館	"
第42回企画展 甦る古代の群馬	群馬県立歴史博物館	4.8.21
長原遺跡発掘調査報告書Ⅲ・Ⅳ前編	(財)大阪市文化財協会	"
長原・瓜破遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ	同上	"
旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構調査報告	同上	"
浦和市遺跡調査会報告書第145・150~154集	浦和市遺跡調査会	"
布勢鶴指奥墳墓群試掘調査報告書	鳥取県教育委員会	4.8.24
東桂見遺跡試掘調査報告書	同上	"
泉水山・下ノ原遺跡Ⅲ・Ⅳ	朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会	"
馬堀遺跡発掘調査報告書	同上	"
朝霞市史調査報告書第6集	同上	"
埋蔵文化財のはなし 調査の方法	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	4.8.27
上之山	瀬戸市教育委員会	"
年報Vol.8・9	長野市立博物館	4.8.28
博物館講演集	同上	"
のじぎく文化財だより第4号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	4.8.29
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査終了記念写真集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第137・138集	同上	"
犬間遺跡発掘調査報告書	磐田市教育委員会	4.8.31
国分寺・国府台遺跡第5次地点	同上	"
国分寺・国府台遺跡第83次発掘調査報告書	同上	"
国分寺・国府台遺跡発掘調査報告書	同上	"
竹之内1号墓遺跡発掘調査報告書	同上	"
御殿・二之宮遺跡	同上	"

書名	寄贈者	受入日
松林山古墳発掘調査報告書	磐田市教育委員会	4.8.31
岩井安全寺境内墳墓群発掘調査報告書	同上	〃
大宝院廃寺発掘調査報告書	同上	〃
道東古墳群発掘調査報告書	同上	〃
笹子城跡現地説明会資料 戦国時代の城	〔財〕千葉県文化財センター	4.9.1
多賀城市文化財調査報告書第28～31集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	4.9.2
藤原京跡の便所遺構右京七条一坊西北坪	奈良国立文化財研究所	4.9.3
飛鳥・藤原宮発掘調査概報21・22	同上	〃
市原市史資料集 近世編1	市原市教育委員会	4.9.4
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第90・97～104・106集	〔財〕広島県埋蔵文化財調査センター	〃
賀茂学園都市開発整備事業地内(西高屋地区)遺跡群Ⅶ	同上	〃
研究輯録Ⅱ	同上	〃
葛飾区遺跡調査会調査報告第15・16集	葛飾区遺跡調査会	4.9.7
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1991年度	〔財〕東大阪市文化財協会	〃
水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次発掘調査報告	同上	〃
川山遺跡発掘調査報告書	〔財〕浜松市文化協会・浜松市博物館	〃
半田山F古墳群	同上	〃
瓦屋西古墳群	同上	〃
有玉西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書上・下巻	同上	〃
茨城県教育財団文化財調査報告第70～77集	〔財〕茨城県教育財団	4.9.9
年報11 平成3年度	同上	〃
研究ノート創刊号	同上	〃
資料館ガイドブック8 埼玉の流鏑馬	埼玉県立歴史資料館	4.9.10
日立市文化財調査報告第4・5集	日立市郷土博物館	〃
図説 日立市市制50周年記念	同上	〃
松原遺跡	一宮町教育委員会	〃
京都府遺跡調査概報第49・50冊	〔財〕京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
京都府遺跡調査報告書第17冊	同上	〃
えびなの史跡	海老名市教育委員会	4.9.14
海老名本郷	同上	〃
相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ	同上	〃
近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊7	三重県埋蔵文化財センター	〃
第12回三重県埋蔵文化財展 三重の縄文時代	同上	〃
一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報	同上	〃
三重県埋蔵文化財センター研究紀要第1号	同上	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第11号 平成3(1991)年度	福岡市埋蔵文化財センター	〃
北区埋蔵文化財調査報告書第8～10集	東京都北区教育委員会	〃
和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第3～5集	和歌山市教育委員会	4.9.17
六十谷古墳群発掘調査報告書	同上	〃
秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書	秋田市教育委員会	〃
高山歴史学研究所文化財調査報告書第2冊	高山歴史学研究所	4.9.21
奈良国立文化財研究所年報1991	奈良国立文化財研究所	〃
藤原宮と京 展示案内	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第38・42集	国立歴史民俗博物館	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊	〔財〕香川県埋蔵文化財調査センター	〃
枚方市文化財年報12 1990年度分	〔財〕枚方市文化財研究調査会	4.9.24
古代第94号	早稲田大学考古学会	〃

書名	寄贈者	受入日
常陸武田の里	勝田市教育委員会	4.9.24
遠原貝塚発掘調査報告書(第3次)	同上	〃
平成3年度市内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
藤本弥城先史資料整理調査報告書VI	同上	〃
二ツ塚古墳群	四日市市遺跡調査会	4.9.28
財団法人山武郡市文化財センター年報No.6・7	(財)山武郡市文化財センター	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書第98・99・115・116・120・121・123・125~128集	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	4.9.30
埋蔵文化財調査室年報8 平成2年度	同上	〃
研究紀要第6号	同上	〃
博物館資料集1 白洲ふくさ人形	浜松市博物館	4.10.2
千葉県指定有形文化財龍正院銅造宝篋印塔保存修理工事報告書	下総町教育委員会	〃
よみがえる小倉城下町	北九州市立考古博物館	〃
(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第29・35・36・43・51・55~57・59・60集	(財)印旛郡市文化財センター	〃
財団法人印旛郡市文化財センター年報7 平成2年度	同上	〃
武蔵大学人文学会雑誌第24巻1号	武蔵大学人文学会	4.10.5
赤塚大塚原遺跡発掘調査報告書	赤塚大塚原遺跡調査会	〃
小山市立博物館紀要第3号1992	小山市立博物館	〃
榛原町文化財調査概要4~8	榛原町教育委員会	〃
第31回特別展 水・稲・祭り	長野市立博物館	4.10.6
内園4遺跡	深川市教育委員会	〃
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書第54・57・62・63・67・68・72~74集	(財)君津郡市文化財センター	4.10.8
第4回特別展 ブナ林の自然誌	千葉県立中央博物館	〃
函館都市の記憶 市制施行70周年記念写真集	(財)函館市文化・スポーツ振興財団	4.10.12
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報18・19集	宇治市教育委員会	〃
乙方遺跡発掘調査成果資料	同上	〃
神奈川県立博物館発掘調査報告書第19号	神奈川県立博物館	〃
飛鳥の工房	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	〃
岐阜県文化財保護センター調査報告書第1~4集	(財)岐阜県文化財保護センター	〃
第10回近畿地方埋蔵文化研究会資料	(財)大阪文化財センター	4.10.14
盛岡城跡昭和61・62年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会	〃
志波城跡 平成3年度発掘調査概報	同上	〃
国指定史跡志波城跡	同上	〃
館・松ノ木遺跡 古代の遺構編	同上	〃
大館遺跡群 昭和63年度・平成元年度発掘調査概報	同上	〃
大館遺跡群大館町遺跡 平成3年度発掘調査概要	同上	〃
鹿島町の文化財第64・66・68・69・71集	(財)鹿島町文化・スポーツ振興事業団	4.10.16
旧石器時代の狩りと暮らし	野田市郷土博物館	〃
第16回特別展 会津高原たていわ	大宮市立博物館	〃
古代学研究所研究報告第3輯	(財)古代学協會	〃
'92特別展日本海が結ぶ古代文化交流 古代の出雲と朝鮮半島	島根県立出雲立つ風土記の丘	4.10.20
ムゼイオン第38号	立教大学	〃
歴史学11	高山歴史額研究所	〃
松山市文化財調査報告書第29・30集	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
松山市埋蔵文化財調査年報VI	同上	〃
納内3遺跡	北海道教育庁	〃
調査年報4 平成3年度	(財)北海道埋蔵文化財センター	〃
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第73~79集	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
浦和市遺跡調査会報告書第155～157集	浦和市遺跡調査会	4.10.22
浦和市内遺跡発掘調査報告書第18集	同上	〃
光ヶ丘塚群1号塚・2号塚測量調査報告書	柏市教育委員会	〃
古墳時代の研究第12巻 古墳の造られた時代	雄山閣出版	〃
激動の3世紀 古墳誕生の謎 大阪府弥生文化博物館図録5	大阪府立弥生文化博物館	〃
歴史シンポジウム池上・曾根遺跡 弥生ムラその成立と解体	同上	〃
研究連絡誌第35号	(財)千葉県文化財センター	4.10.26
千葉県文化財センター年報No.17 平成3年度	同上	〃
千葉県文化財センター調査報告書第204～217集	同上	〃
発掘調査35年史展出土品にみる瀬戸の歴史	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
展示解説書 さきたま將軍塚古墳と銅鏡	埼玉県立さきたま資料館	〃
資料館報No.23	同上	〃
調査研究報告第5号	同上	〃
各務原市文化財調査報告書第11号	各務原市埋蔵文化財調査センター	〃
第1回特別企画展 天上へ向かうかたちさまざまな塔	埼玉県立歴史資料館	〃
三重県埋蔵文化財調査報告51-2・94-4	三重県埋蔵文化財センター	〃
三重県埋蔵文化財調査報告書97	同上	〃
縄文時代集落の人口構造	渡辺新	〃
仙台市文化財調査報告書第149・150集	荒井格	〃
季刊考古学第41号	雄山閣出版	〃
四街道市の文化財第18号	四街道市教育委員会	4.10.29
下小名田遺跡(その1～3)	淡神文化財協会	〃
のじぎく文化財だより第5・6号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	〃
特別展 社寺参詣と代参講	世田谷区立郷土資料館	〃
特別展 織る繭から織物まで	世田谷区教育委員会	〃
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅲ	(財)大阪市文化財協会	〃
難波宮址の研究第9	同上	〃
室生犀星文学アルバム	大田区立郷土博物館	〃
広島県立歴史博物館展示図録第7冊	広島県立歴史博物館	〃
徳島県埋蔵文化財センター研究紀要 真朱創刊号	(財)徳島県埋蔵文化財センター	〃
京都府埋蔵文化財情報第45号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
第10回小さな展覧会 京都発掘'92	同上	〃
愛知県埋蔵文化財情報7 平成2年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター	〃
財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報平成3年度	同上	〃
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第19・26・29・31・32・35・38～41集	同上	〃
港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告Ⅵ～ⅩⅢ	(財)横浜市ふるさと歴史財団	4.11.4
上の山遺跡	同上	〃
大口台遺跡発掘調査報告	同上	〃
横浜市埋蔵文化財センター年報1・2	同上	〃
調査研究集録第7・8冊	同上	〃
古代のよこはま	同上	〃
千葉城郭研究第2号	柴田龍司	〃
愛宕下遺跡調査報告書	東京都練馬区遺跡調査会	4.11.9
遺跡探査No.3	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	〃
大迫町埋蔵文化財報告第14・21集	大迫町教育委員会	〃
三重県埋蔵文化財調査報告79・103	三重県埋蔵文化財センター	〃
村の墓・都市の墓 中世考古学及び隣接諸学から 資料集	(財)山梨文化財研究所	4.11.10

書名	寄贈者	受入日
流山市立博物館年報No.14	流山市立博物館	4.11.11
天徳寺寺域第3遺跡発掘調査報告書	東京都港区立港郷土資料館	"
企画展吾妻の考古展	杉並区立郷土博物館	4.11.12
第2・5回考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	帝塚山考古学研究所	4.11.16
芸術文化研究所研究紀要1	京都芸術短期大学文化財科学研究所	"
平成4年度特別企画展図録 斧の文化	富山県埋蔵文化財センター	"
文京遺跡第2・3・5次調査	愛媛大学	"
福富家文書目録 国立歴史民俗博物館館蔵資料目録1	国立歴史民俗博物館	"
三島市文化財年報第4号	三島市教育委員会	4.11.18
三島スプリングスC.C.ゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	同上	"
長伏上塩辛田遺跡	同上	"
上才塚遺跡第1地点	同上	"
上才塚遺跡第2地点	同上	"
玉川塚田遺跡	同上	"
三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ	同上	"
史跡山中城跡Ⅶ平成2・3年度発掘調査・環境整備事業概報	同上	"
千葉県房総地域における切石積み箱式石棺の研究 構築技法について	平岡和夫	"
平成3年度国庫補助事業発掘調査報告書	堺市教育委員会	"
堺市文化財調査報告第52集	同上	"
堺市文化財調査概要報告第21～31冊	同上	"
名古屋市博物館調査研究報告Ⅱ	名古屋市博物館	4.11.19
本町田上の山遺跡	本町田上の山遺跡調査会	4.11.21
季刊考古学別冊3 東国の古墳	雄山閣出版	4.11.25
博古研究第4号	茨城大学博古研究会	"
愛知県陶磁資料館研究紀要11	愛知県陶磁資料館	"
国府台3 博物館学課程年報	和洋女子大学博物館学研究室	"
橋津組大庄屋日記(二)	別府大学付属博物館	4.11.26
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊	(財)京都市埋蔵文化財研究所	4.11.27
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95・106～121集	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	"
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報昭和54・58年度	山口直樹	4.12.1
企画展 房総の古瓦 展示図録No.4	同上	"
平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告	市原市教育委員会	"
上宿遺跡	酒々井町教育委員会	4.12.2
本佐倉南大堀遺跡	同上	"
高松町大海西山遺跡	高松町教育委員会	"
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報2・3	(社)石川県埋蔵文化財保存協会	4.12.2
国立歴史民俗博物館研究報告第43・44集	国立歴史民俗博物館	"
多賀城市文化財調査報告書第21・23集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	4.12.3
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第24・25・39～41・45～50・52～56・59～62・64・69輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会	"
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査事業報告第3冊	同上	"
(財)大阪府埋蔵文化財協会研究紀要1	同上	"
シンポジウム日根荘総合調査が語るもの	同上	"
第6・7回泉州の遺跡	同上	"
日根荘とその周辺	同上	"
辰口町来丸サクラマチ窯跡 資料編	石川県立埋蔵文化財センター	4.12.5
安養寺遺跡群発掘調査報告書(安養寺・柴木・部入道地区)図版編	同上	"
宮丸遺跡・村井北遺跡・北出遺跡・村井キヒダ遺跡・米永古屋敷遺跡	同上	"

書名	寄贈者	受入日
宮保遺跡群	石川県立埋蔵文化財センター	4.12.5
金沢市寺中B遺跡	同上	"
三浦遺跡	同上	"
古府しのまち遺跡発掘調査報告	同上	"
杉森テラート遺跡	同上	"
松任市法仏遺跡第5・6次発掘調査報告	同上	"
押水町冬野遺跡群	同上	"
大谷則貞1991年度の調査概要	同上	"
垣吉A29・30号墳・垣吉マツサキ山中世墓	同上	"
松任市竹松遺跡群	同上	"
石川県立埋蔵文化財センター年報第11・12号	同上	"
広島県の埋蔵文化財 平成2年度事業の概要	広島県教育委員会	4.12.8
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第105集	同上	"
伊都	前原市立伊都歴史資料館	"
大分県内遺跡群細分布調査概報11	大分県教育委員会	"
大分県文化財調査報告第33・89輯	同上	"
慈眼山瀬戸口遺跡	同上	"
一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	同上	"
青山史学第十三号(史学科開設二十五周年記念号)	青山学院大学文学部史学研究室	4.12.10
松ヶ崎見崎遺跡 松ヶ崎泉遺跡 逆井六塚野馬土手(追録)戸張一番割遺跡出土土玉	柏市教育委員会	4.12.14
泉警察遺跡	玉川文化財研究所	"
世田谷の歴史と文化展示ガイドブック	世田谷区立郷土資料館	"
続石井至毅著作集	同上	"
世田谷区史料叢書第七巻	同上	"
勝光院文化財総合調査報告	同上	"
房総考古学ライブラリー6 古墳時代2	(財)千葉県文化財センター	"
財団法人枚方市文化財研究調査会研究紀要第2集	(財)枚方市文化財研究調査会	"
異民族へのまなざし	東京大学総合研究資料館	"
第10回平城京展 平城京を築いた人びととそのくらしを訪ねて	奈良市教育委員会	4.12.15
平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告	市原市教育委員会	4.12.17
上総国分寺台発掘調査概要XII	同上	"
新訂長野市の文化財	長野市教育委員会	"
大室23号墳移築復原の記録	同上	"
終末期方墳 国立歴史民俗博物館研究報告第44集抜刷	安藤鴻基	"
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第160・163・164・171・177集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	4.12.19
紀要XII	同上	"
久保田城跡	秋田市教育委員会	"
上新城中学校遺跡	同上	"
(財)和歌山県文化財センター年報1987~1991	(財)和歌山県文化財センター	"
今福町遺跡発掘調査概報	同上	"
吉原遺跡 県道柏・御坊線改良工事に伴う弥生遺跡発掘調査概報	同上	"
粟生遺跡 県道有田・高野線改良工事に伴う縄文時代遺跡発掘調査概報	同上	"
根来寺坊院跡 岩出町立歴史民俗資料館建設に伴う発掘調査	同上	"
岡村遺跡 亀の川中小河川改修工事に伴う弥生遺跡発掘調査概報	同上	"
根来寺坊院跡 根来公衆便所設置に伴う発掘調査概報	同上	"
根来寺坊院跡 町道根来・北大池線改良舗装工事に伴う事前発掘調査概報	同上	"
粟生遺跡 県道有田・高野線道路改良工事に伴う第4次発掘調査概報	同上	"

書名	寄贈者	受入日
速玉大社境内遺跡 佐藤春夫記念館建設に伴う	（財）和歌山県文化財センター	4.12.19
稲成遺跡 一般国道42号(田辺バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	同 上	〃
金剛峯寺遺跡 高野山霊宝館新収蔵庫及び駐車場建設に伴う発掘調査報告書	同 上	〃
稲成遺跡発掘調査概報	同 上	〃
粟生遺跡発掘調査報告書 県道有田・高野線道路改良工事に伴う発掘調査	同 上	〃
金剛峯寺遺跡 南都銀行高野山支店新築工事に伴う発掘調査	同 上	〃
田殿尾中遺跡発掘調査概報	同 上	〃
吉原遺跡 県道柏・御坊線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	同 上	〃
金剛峯寺遺跡発掘調査概報 紀陽銀行高野山支店新築工事に伴う発掘調査	同 上	〃
佐野遺跡発掘調査概報	同 上	〃
西国分Ⅱ遺跡発掘調査概報	同 上	〃
鳥居遺跡発掘調査概報	同 上	〃
小熊Ⅲ・木曾遺跡試掘調査報告書	同 上	〃
笠嶋遺跡 串本中学校校舎建築に伴う発掘調査報告書	同 上	〃
南紀男山焼	同 上	〃
根来寺坊院跡 前山地区宅地造成工事に伴う調査	同 上	〃
山東22号古墳 県道と歌山橋本線改良工事に伴う発掘調査概報	同 上	〃
志木市の文化財第17・18集	志木市教育委員会	4.12.21
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書IX	四日市市遺跡調査会	〃
常設展示解説	滋賀県立安土城考古博物館	〃
日本全国書誌No.1890	国立国会図書館	4.12.24
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第125・140集	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
アサヒグラフ3683号	朝日新聞社	4.12.25
平等院庭園発掘調査概要報告	宇治市教育委員会	5.1.11
中島遺跡	鳩山町教育委員会	〃
東山崎・水田遺跡	（財）香川県埋蔵文化財調査センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報11 平成3年度	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告25・26	同 上	〃
埼玉県立博物館展示解説 歴史Ⅰ 地質時代～古墳時代	近藤敏	〃
シンポジウム縄文時代後・晩期安行文化 土器型式と土偶型式の出会い	八重樫純樹	5.1.13
埼玉県立埋蔵文化財センター第6回出土品展 さいたまを掘る	埼玉県立埋蔵文化財センター	〃
日本全国書誌1993-3 No.1892	国立国会図書館	〃
東京都埋蔵文化財センター調査報告第13・14集	（財）東京都埋蔵文化財センター	5.1.14
東京都埋蔵文化財センター年報12	（財）東京都埋蔵文化財センター	5.1.14
東京都埋蔵文化財センター研究論集XI	同 上	〃
資料目録5・6	同 上	〃
研究連絡誌第36号	（財）千葉県文化財センター	5.1.16
遺跡探査No.4	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	5.1.20
市立市川考古博物館年報第18・19号	市立市川考古博物館	〃
堀之内貝塚資料図譜	同 上	〃
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第139集	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
木田余台 調査概報	土浦市教育委員会	〃
嵩久保一里塚発掘調査報告書	同 上	〃
茨城県指定史跡土浦城址発掘調査報告書	同 上	〃
八幡下遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
木田余台Ⅰ	同 上	〃
国指定史跡上高津貝塚の発掘	同 上	〃

書名	寄贈者	受入日
千葉県立房総風土記の丘年報15 平成3年度	千葉県立房総風土記の丘	5.1.22
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27・28・37集	愛知県埋蔵文化財センター	〃
古代の豪族	泉南市教育委員会	5.1.25
山崎上宿遺跡 附・東新田野馬除土堤遺跡	野田市遺跡調査会	〃
東海大学校地内遺跡調査団報告3	東海大学校地内遺跡調査団	5.1.27
岡本北遺跡	六甲山麓遺跡調査会	〃
岩屋北町遺跡	同上	〃
岡町北遺跡第3次調査	同上	〃
西紀、丹南町文化財調査報告第8～10集	西紀、丹南町教育委員会	〃
大山荘を訪ねて	同上	〃
南多摩窯跡群	八王子市教育委員会	5.1.28
京都府埋蔵文化財情報第46号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.2.1
伊勢菰野藩土方家屋敷跡遺跡発掘調査概報	東京都港区立港郷土資料館	〃
はらやま	調布市原山遺跡調査会	〃
鴨田遺跡発掘調査報告書Ⅰ	滋賀県文化財保護協会	〃
文化財調査出土遺物仮収納保管業務平成3年度発掘調査概要	同上	〃
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ-1・2	同上	〃
梅ノ木遺跡発掘調査報告書	同上	〃
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-1～5・7・8	同上	〃
一般国道161号(高島バイパス)建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ～Ⅳ	同上	〃
野路小野山遺跡発掘調査報告書	同上	〃
粟津湖底遺跡	同上	〃
錦織遺跡	同上	〃
唐橋遺跡	同上	〃
千僧供養寺遺跡発掘調査報告書	同上	〃
松原内湖遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	〃
小野八幡神社遺跡発掘調査報告書	下総町教育委員会	5.2.3
愛知県津郡市文化財センター発掘調査報告書第64～66・75・76・78集	愛知県津郡市文化財センター	5.2.4
昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書	市原市教育委員会	5.2.5
昭和63年度市原市内遺跡群発掘調査報告	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成2・3年度	富山県埋蔵文化財センター	5.2.8
浦和市遺跡調査会報告書第158・159集	浦和市遺跡調査会	5.2.9
埋蔵文化財センター年報第2号 平成4年度	栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	5.2.19
栃木県埋蔵文化財調査報告第119・120・122・123・125集	同上	〃
のじぎく文化財だより第7～10号	愛媛のじぎく文化財保護研究財団	〃
玉津田中遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編	淡神文化財協会	〃
弥生文化博物館研究報告第1集	大阪府立弥生文化博物館	〃
成田山ゆかりの人々Ⅴ	成田山霊光館	〃
東郷町文化財報告書第8集	東郷町教育委員会	〃
ジャパンエキスポ関連遺跡群発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ	富山県埋蔵文化財センター	〃
南中田D遺跡発掘調査報告書	同上	〃
北陸自動車道遺跡調査報告朝日町編6	同上	〃
古沢バイパス関連遺跡発掘調査報告	同上	〃
古墳を歩く	米田耕之助	〃
愛知県群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第129集	愛知県群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.2.20
大阪府下埋蔵文化財研究会(第27回)資料	大阪文化財センター	〃
京都府遺跡調査概報第51冊	京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃

書名	寄贈者	受入日
珍部坂A・B遺跡	茅野市教育委員会	5.2.23
中原遺跡	同上	〃
上ノ段遺跡	同上	〃
城遺跡	同上	〃
水尻遺跡	同上	〃
床滑遺跡	同上	〃
筈原遺跡	同上	〃
尖石遺跡	同上	〃
出頭遺跡	同上	〃
神垣外遺跡	同上	〃
鴨田遺跡	同上	〃
尖石考古館図録	同上	〃
市立市川考古博物館展示解説	市立市川考古博物館	5.2.25
長岡京跡 長岡京遷都1200年記念	(財)向日市埋蔵文化財センター	〃
向日町成立400年 向日町成立400年記念誌	同上	〃
平成3年度(財)向日市埋蔵文化財センター年報 都城4	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第45・46集	国立歴史民俗博物館	〃
(財)香取郡市文化財センター調査報告書第8～10集	(財)香取郡市文化財センター	〃
紅葉城跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	〃
岩折遺跡発掘調査報告書	同上	〃
宝泉寺跡発掘調査報告書	同上	〃
山田・宝馬古墳群 学術調査研究第2集	同上	〃
下新田遺跡発掘調査報告書	同上	〃
玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第4・5集	同上	〃
日向山遺跡発掘調査報告	同上	〃
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
横俵遺跡群II	同上	〃
平成4年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	5.3.9
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第18・27・30・34・35集	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
角江遺跡	同上	〃
瀬名遺跡 昭和63年度、平成元・2年度	同上	〃
池ヶ谷遺跡 昭和63年度、平成2年度	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	5.3.9
御殿川流域遺跡群 平成2・3年度	同上	〃
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報VII・VIII	同上	〃
研究紀要10	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報11	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第128集	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第41集	国立歴史民俗博物館	〃
落越遺跡I・II	八王子市教育委員会	〃
仙台市文化財調査報告書第158集	仙台市教育委員会	〃
九州歴史資料館年報平成3年度	九州歴史資料館	〃
九州歴史資料館研究論集17	同上	〃
企画展 城南の遺跡 世田谷周辺発掘調査最新報告	世田谷区立郷土資料館	〃
武蔵大学人文学会雑誌第24巻第2・3号	武蔵大学人文学会	〃
のじぎく文化財だより第11号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	〃
東京の遺跡散歩	東京都教育委員会	5.3.10
田名坂上遺跡	相模原市No.63遺跡調査団	〃

書名	寄贈者	受入日
日本窯業史研究所報告第42・43冊	日本窯業史研究所	5. 3. 10
(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第136集 企画展 萱葺き師	(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5. 3. 12
福島県文化財調査報告書第264・282～285集	世田谷区教育委員会	〃
横江	(助)福島県文化センター	〃
金沢市戸水B遺跡第4・5次調査	石川県立埋蔵文化財センター	〃
特別名勝兼六園(江戸町跡推定地)発掘調査報告	同上	〃
飯田町遺跡	同上	〃
千代	同上	〃
相川遺跡群	同上	〃
藤橋遺跡	同上	〃
森本六爾氏生誕90周年記念 二粒の粉	(助)桜井市文化財協会	5. 3. 16
下宿内山遺跡	下宿内山遺跡調査団	5. 3. 17
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成3年度	千葉県教育庁生涯学習部	5. 3. 19
いちはらの文化財 市制施行30周年記念	市原市教育委員会	5. 3. 22
(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第134・142集 のじぎく文化財だより第2号	(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5. 3. 30
柏原5遺跡発掘調査(第2次)概要報告書	(助)のじぎく文化財保護研究財団	〃
	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃

市原市文化財センター年報

(平成4年度)

平成8年3月25日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 三陽工業株式会社
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348